



2017年度 事業報告

公益財団法人東京YWCA

目次

ご挨拶.....	1
東京YWCA 2017 年度基本方針	2
Ⅰ 平和と人権事業.....	3
Ⅱ 青少年育成事業.....	6
Ⅲ 女性の健康事業.....	8
Ⅳ 社会福祉に資する事業.....	10
Ⅴ 非営利機関・団体への施設貸与事業.....	12
Ⅵ 東日本大震災被災者支援事業.....	13
Ⅶ 収益事業および共益的な事業.....	14
数字・資料で見る東京YWCAの事業活動.....	15
2017 年度公益財団法人東京YWCA組織図.....	24
理事・監事・評議員.....	24
加盟・協力団体.....	25
賛助会員・寄付者.....	25
財務諸表.....	27
監査報告.....	30
事業を行っている主な拠点	

ご挨拶

東京では早くもそめいよしのが散った四月、春を通り越して夏になってしまうかと思われるような天候。異常気象が常態化する昨今、ひとりひとりが地球環境のことを考え、行動に移す必要を感じます。

そうした中で新年度を迎えておりますが、皆様におかれましてはご精励のことと拝察致します。ここに2017年度の事業報告を申し上げますのは、一重に関係諸機関、諸団体並びに寄付者の皆様、また会員・ボランティアの方々のお支えによるものと、深く感謝しております。

さて、2017年度には幾つか特筆すべきことがございましたので、述べさせて戴きます。まず、かねてより武蔵野市並びに近隣の方々にお世話をおかけして参りました武蔵野センター跡地の、市への譲渡が完了致しました。センターは吉祥寺の地に移り、日本語を母語としない親を持つ子どもたちの学習指導を中心に、ささやかながらも着実に事業を継続しております。建物を貸与して下さった方には感謝のほかはございません。

一方、板橋においては、かねてより障がい児療育事業を行って参りましたが、2017年度より児童発達支援センターとして新しい歩みを始めました。規模拡大によりまだまだ不安定な要素もありますが、子どもたちのため努力を続けています。

もう一つ、「読むことの困難な人々への支援」(通称 DAISY)を新たに開始しました。この事業は旧財団での音訳ボランティア活動が研究を重ね事業化に至ったもので、このたび一部板橋でも行うこととなりました。

今年度も各施設の維持管理・修繕、殊に駿河台の会館の空調設備更新といった課題を抱えておりますが、法人の使命を果すべく力を尽くして参ります。今後とも一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年6月

公益財団法人東京YWCA

代表理事 川戸れい子

東京YWCA 2017年度基本方針

東京YWCAが定款に定めた目的、「すべての人びとのために自由と尊厳、正義と平和を実現する」を達成するために、会員総会で策定した以下の基本方針・重点課題をふまえて、各事業に取り組んだ。

YWCAのすべての事業、活動はキリスト教基盤に立っておこなわれており、女性や子ども、社会で弱い立場にある人、困難な状況にある人に寄り添って、人権、環境、健康が守られる平和な世界の実現を目指した。

国内外のYWCAのネットワークを活かし、他団体や行政とも連携しながら、多くの会員、支援者、職員が力を合わせて事業を展開することが出来た。

公益財団法人となり7年経ち、東京YWCAがさらに社会貢献を果たし、使命を達成することが出来るよう、事業の充実、組織・財政の強化を図りつつ歩みを進めた。

東京YWCA 2017年度 基本方針・重点課題

日本YWCAのビジョン（※）をふまえ、東京YWCAとして2017年度の基本方針・重点課題を以下のとおりとした。

基本方針

1. 非戦の立場に立ち、平和憲法を護り、活かす。
2. 核兵器のない世界、原発のない社会を目指す。
3. 環境保全のために持続可能な社会を目指す。
4. いのちを尊び、平和を願い求める青少年を育てる。
5. 個人の尊厳を重んじ、支え合う社会を目指す。

重点課題

- 危機意識を共有し、憲法改悪阻止のために行動する。
- 脱原発のために行動する。
- 公益事業を支えるためのファンドレイジングを推進する。
- 青年枠（35歳以下）の会員増加に努める。

（※）日本YWCA第32総会期 主題聖句・ミッション・ビジョン

主題聖句 平和を実現する人々は幸いである —マタイによる福音書5章9節

使命（ミッション） イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する。

世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む。

ビジョン 地域で女性達が主体的に活動することを通して、以下の社会をめざします。

- (1) 平和憲法が生かされ、核も暴力もない社会
- (2) 女性と子どもの尊厳を守る社会
- (3) 若い女性がリーダーシップを発揮する社会
- (4) 多世代・多文化で多様な背景を持つ人びとを尊重する社会

I 平和と人権事業 (公益目的事業 事業番号：公1)

この事業は、平和、非暴力、非核、非戦を訴え、人権が尊重され、すべての人が共に生きる世界の実現を目指し、社会で不当な圧力を受けやすい人々を支援する事業です。



各事業は、多くの方々からのご寄付、また助成金、補助金などの財政的支援と事業に直接関わり、ご協力いただいた支援者の皆様により実施することが出来た。平和な社会の実現と一人ひとりの人権が尊重されることを目的に事業が継続された。

1. 日本で学ぶ外国人留学生支援事業

家庭交流を中心とした外国人留学生支援は、1961年に1人の外国人留学生と東京YWCA会員(母親)の1対1の「組み合わせ」という形で始まった。留学生との交流による気づきによって、留学生を支援する運動が生まれ、「留学生の母親」運動として現在に至っている。今年度は、69組の「組み合わせ」が誕生した。留学生の出身は23カ国・地域にわたり、人数では中国、台湾、タイが多かった。最近の傾向では、母国で大学を卒業し就職を経験した年齢の高い留学生が増えている。組み合わせ留学生と日本人家庭を対象に、12月には「クリスマス会」を開いた。前半には、日ごろの日本語学習の成果の発表の場として、一般の留学生も対象とした日本語発表会を開き、ベトナムの留学生がフロアの投票で表彰された。3月に今年度大学、大学院を卒業する組み合わせ留学生を対象に、「卒業お祝い会」を開いた。留学生一人ひとりから留学中のエピソードを聞き、今後の抱負を語ってもらい、学業の目的達成とはじめて出会ったときからの成

長を組み合わせの日本人家庭と共に祝った。

留学生相談室は、進学や転学先、在留資格、アルバイト、税金等生活上のあらゆる問題に対して電話又は来室にて相談を受けた。相談件数は、減っており、特に生活に関する相談は、昨年度70件に比較し11件に、また宿舎については昨年度13件に対し1件、労働は昨年17件に対し12件にとどまった。インターネットで情報を取りやすくなったためとみられる。相談者の内訳は、中国28%、台湾13%、ベトナム7%、韓国6%、その他7%で、最も多いのは、外国人と交流のある日本人からの問い合わせ等の39%だった。

また、相談室では、ことしも東京YWCA留学生相談室に登録している家庭の協力でショートホームステイとホームビジットを実施した。

なお、留学生相談室は、次年度以降に向けて相談員の世代交代を進めるため、一旦休室することが決まった。ホームステイ・ホームビジットは、これまで通り、希望する留学生と受け入れ家庭のコーディネートを実施する。

母の会は、「留学生の母親」運動メンバーの研修の機会としてこれまで開い

てきたが、今年度は、留学生相談室等の今後の運営を模索するために、2回開催した。

日本語支援は、「留学生談話室」と留学生相談室が実施する「火曜ルーム」との活動からなる。

留学生談話室は、外国人来室者が680人(昨年度734人)だった。留学生が、学校でもアルバイト先でもない場で、日本語の日常会話を日本人とグループでできる場として実施した。その中で七夕、ひなまつり等の日本文化に触れたり、日本の家庭料理を一緒に作ったりする機会をつくった。

火曜ルームでは、留学生1人に対し、支援者1人がついて、日本語支援をした。帰国する留学生が多い春休み後の4月以外は、来室者数は年間を通して安定しており、来室延べ人数は326人(昨年度261人)だった。中国、台湾、韓国をはじめ6ヶ国の留学生を受けとめた。

「留学生資金」の無利息貸与について、今年度は申し込みも、供与の対象となる事案もなかった。

*留学生談話室、留学生相談室における運営費の一部について東京都在住外国人支援事業助成金の助成を受けた。

2. 留学生助成事業

「留学生の母親」運動奨学金(1982年発足)は、日本で学ぶ勉学に意欲的、かつ経済的に困難な外国人留学生に対し、留学目的が達成できるよう助成した。平和な社会の実現を目指して将来活躍する留学生を支援するという目的にそって選考作業を進めた結果、4人の留学生を今年度の奨学生に決定した。その内1人から他の奨学金と重複するため辞退の申し出があり、3人の奨学生各人に年額36万円を支給した。年3回、奨学生報告会をひらき、奨学金小委員会や会員が、奨学生から勉学や生活の様子を聞き、また「留学生の母親」運動が行う留学生と会員の集いや卒業お祝い会など、交流の機会を設け、奨学金の給付のみならず、精神的なサポートも行った。今年度の奨学生は、大学院進学、日本での就職に関心が高く、10月の報告会では、元奨学生3人より学校や仕事の経験を聞く機会をつくった。年3回の奨学生報告会の締めくくりである3月の報告会では、寄付者を招いて、日頃の勉学の様子を奨学生より発表してもらった。

3. 中国帰国者日本語支援事業

中国帰国者日本語教室は、中国帰国者が日本に定着し、地域社会にとけこみ、自立した生活を営むために必要な日本語の基礎を習得することを目的に、公益財団法人中国残留孤児援護基金自立研修事業の再委託として実施してきたが、2017年度の委託はなく、休止した。

日本語学習サロンは、主に日本語教室を修了した高齢の帰国者を対象に日本語の運用力を身につけ、社会参加をうながすことを目的に実施した。学習進度により4つのグループに分け、それぞれ年間30回開催した。日本語教室の講師による

指導と話し相手のボランティアが関わることによって細やかな対応ができ、学習者の日本語理解を助けた。季節ごとの行事や日本の風習などを教材に取り入れたり、各グループの担当講師の創意工夫により、ボランティアがサポートしながら、日本語学習を支援した。ボランティア募集を年3回開催し、説明会と学習サロンの見学をおこなった。10月、12月、3月には、グループ合同で集まる機会を持ち、学習者が主体的に役割を担い、漢詩や中国でのあいさつを披露した。

*日本語学習サロンは、運営費の一部について東京都在住外国人支援事業助成金の助成を受けた。

4. 平和をつくるキャンペーン

平和、非暴力、非核、非戦の啓発活動は、多世代を対象に複数の会場でイベントを展開した。東京YWCAの今年度の重点課題でもある憲法については、非戦、非核、非暴力をともに考えることを目的に2012年から「憲法カフェ」を開催している。今年度は、4月は施行70年目を迎える日本国憲法の制定過程をテーマに、7月には沖縄の基地と女性の人権、11月には環境と人権をテーマに一人ひとりが行動できる判断力を養い、連帯していく力を得ることをめざし、講師を囲み、課題への理解を深めた。また、ユースのための憲法カフェを横浜YWCAと協働で2回開催した。「仕事」「教育」をテーマに、身近な問題について考える機会を提供し、憲法で保障されている内容を考える機会をもった。次年度は、全3回開催する予定である。これは、地域YWCAをつなぐ日本YWCAの補助事業の一環で、2年次にわたって実施することになっている。

クリスマスは「平和へ想いをよせ、祈り、求めるとき」と呼びかけ、Christmas

for Peace 2017を開催した。「私たちの自由をまもるために」のテーマに沿って、クリスマスメッセージとトークセッションの2部構成で内容を深めた。分断された時代の中で他者とのつながりを求めながら、自由であることの意味をクリスマスメッセージで聞き、トークセッションでは、差別や生きづらさを感じている人々に寄り添う活動に携わってきた立場からの発題と教育現場の声が届けられた。発題を聞き、私たちの無関心に気づかされ、自分の問題として考える機会が与えられた。

毎年11月に開催する地域のキャンペーン「むさしの市民平和月間」においては、沖縄をテーマに選び、武蔵野センターで写真展示、映像と講演会による「正子・R・サマーズ展」を開催した。開催40回を超す「0422市民クリスマス」は、今年度も電話局番0422の教会(超教派)・YMCA・YWCAが合同で一般市民を対象としたクリスマスを実施し、共に祝うときを持った。

HIV/AIDS 啓発のためのキャンペーンは、今年度は具体的な取り組みは実施しなかった。

*ユースのための憲法カフェは、公益財団法人日本YWCAからの助成金を受けて実施した。

5. 平和と人権に関する人材育成事業

この事業は、主にDV(ドメスティック・バイオレンス)被害者の支援に取り組む人材の養成を目的としている。東京YWCAが開発した「支援者エンパワメントプログラム」により、支援者が、よりよい支援をDVサバイバーに提供することができるよう、「つながる」「はかる」「まなぶ」の3つのアプローチからサポートを提供した。

「つながる」では、一人でケースを抱え込んだり、孤立しがちな支援者が、団

体や所属を超えてつながり、支援に役立つ有機的なネットワークをつくる目的で、支援者サロンを6回開催した。

「はかる」では、支援をする上での目安となり、研修の効果をはかるためのツールとして開発した「DVサバイバー支援のガイドライン」を第1版としてまとめた。

「まなぶ」では、それぞれの支援現場の課題やニーズに合わせたオーダーメイドの研修を、のべ15回行った。その他、以前からプログラム参加者から要望のあった事例検討会を、東京YWCA会館にて試行的に3回行った。

今年度は、全国のDV被害者支援者の人材育成を目的とした3カ年計画「DV被害者支援の質向上に向けた人材育成とコミュニティ形成プロジェクト」を、ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会からの助成を得てスタートさせて2年度目にあたる。モデル地域4か所(秋田、大阪、静岡、熊本)で「DVサバイバーと協働するための支援者トレーニング」とそのフォローアップ研修を、各地域の支援者や支援団体の協力を得て開催し、延べ145人が受講した。また、同時に支援者トレーニングのトレーナーを1人養成した。

その他、東京YWCAが加盟する、NPO法人全国女性シェルターネットが主催する「第20回全国シェルターシンポジウムin東京」において、実行委員会に加わった。今年度、武蔵野大学人間科学部人間科学科の学科フィールドスタディーズから受け入れた6名が、ボランティアとして参加して、同シンポジウムに携わった。DV被害等に対する支援や、ボランティアとしてのリーダーシップを学びながら、当日運営とシンポジウムの成功に貢献した。

昨年度集まったプロボノとボランティアメンバーとともに、広報やファンドレイジングについて検討した。

インターンシップは応募がなかったため実施しなかった。

*「DV被害者支援の質向上に向けた人材育成とコミュニティ形成プロジェクト」はジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会からの助成金により実施。

*「サバイバー」:本事業では、DVを経験した人を「被害者」ではなく、試練の中を生き延びている力強さを表す「サバイバー」という言葉で表現している。

6. NPO/NGO団体への語学支援

東京YWCA国際語学ボランティアズILV(いるぶ)は、英文資料を活用したい、情報を世界に発信したい、というNPO/NGOからの依頼を受け、英語に関する翻訳・通訳を無償でおこなった。

今年度は発展途上国支援や子育て支援を行う団体から依頼があった。翻訳依頼では、報告書やニューズレター、研修資料、国際会議の資料などがあり、通訳依頼では、NPO法人のプログラム視察の同行通訳の依頼を受けた。

10月、3月に、講師を招いて日英翻訳のスキルアップ研修を行った。日本語と英語の構造の違い、見落としやすい点を丁寧な添削と解説を受け、スキル向上を図った。

Ⅱ 青少年育成事業 (公益目的事業 事業番号：公2)

この事業は、子どもたちの固有の人格をかけがえのないものとして尊重し、他者と共に生きるグローバルな視点をもった人として全人格的に成長していくことを支援する事業です。

教育キャンプ等を通して自己肯定感、自発性、創造力、社会性、持続力、豊かな感受性を育むことを目的として事業を展開した。すべての事業は、ボランティア、専門指導者によって無事実施することが出来た。多方面からのご支援に心より感謝したい。

1. 教育キャンプ

豊かな自然を有する東京YWCA野尻キャンプ場(長野県信濃町)にて、7、8月にかけて幼児から中高生を対象に発達段階に合わせた教育キャンプを実施。キャンプ生活を通して自己発見、チームワークやコミュニケーション能力を育むプログラムを行った。また、5、11、3月には家族対象の自然体験プログラムを実施した。年間を通して、四季折々の自然を感じたり日常ではできない体験や驚きに触れることで子どもたちの生きる力を涵養するプログラムを実施した。

キャンプ場の地元小学生を対象にした「子どもキャンプ」は、学年間交流も含めて野尻湖の自然を体験する機会となった。

●幼児と小学生 わいわいキャンプ



日程：8月5日～8日(3泊4日)
親元を離れての宿泊と水遊び・アーチェリー・クラフト・自然探検や野外料理などを体験した。夜は暗闇のキャンプサイトを探検してセミの羽化を観察するなど、自然の中で動植物にふれることができた。「野尻フェス」のテーマで、グループごとに野尻にいる動物がいたグ

ープ名をつけて、動物に扮した衣装や替え歌を作り発表した。

●小学生アドベンチャーキャンプ



日程：8月5日～9日(4泊5日)
水泳・アーチェリー・自然・クラフト・ボートなどの選択プログラムの他、「野尻湖人の暮らしを体験しよう」のテーマで昔の人の生活を体験する内容を盛り込んだ。火おこし体験やお守りのプレスレット作り、包丁などの道具をできるだけ使わないで工夫する野外料理を実施した。またこのキャンプが最後の6年生は、一晩野宿を体験した。

● 中高生スーパーチャレンジ・ガールズキャンプ



日程：8月9日～16日(7泊8日)
「マメフォーラム～2017 in Nojiri～マメから見える世界と多様性」をテーマに環境や生物多様性の観点から女性として多様な存在を考えるキャンプとなった。豆の植生を考えたり、豆の成長と自

分の成長を照らし合わせながら自分のキャリアを考えたり、平和のプログラムでは、平和とは何か、平和のために何ができるかを考えるワークショップを実施した。高校生と中学生がそれぞれ自分たちでプログラムを企画することによって人格的成長を促すプログラムを展開した。毎食豆料理を食べ、食の多様性や女性としての健康を考える時間にもなった。高校生は毎日カナディアンカヌーに取り組み、最後に野尻湖半周トリップにも挑戦した。

●サバイバルキャンプ



日程：8月16日～19日(3泊4日)
「命をまもる・自然から学ぶ・人とつながる」をコンセプトに、キャンプスキルを身に付けて、災害時に誰かのために動ける人になることを目標にして今年度初めて実施した。テントで生活しながら、ビニール袋をポンチョや水枕にする方法や、風呂敷など身の回りの物を役立てる方法を実践的に学んだ。携帯しておく役立つ物を確認し、災害に強い町づくりや災害への備えを学んだ。また心身の安全を考える時間をもつことができた。持ち寄った非常食の使い方を確認して試食し、野外料理では空き缶をコンロにしてご飯を炊くなどの体験をした。

●冬休み、春休みスキーキャンプ



日程：12月26日～29日（3泊4日）

3月24日～27日（3泊4日）

レベルに合わせてスキー講習を実施した。小学生はグループでテーマに合わせた衣装や歌の発表をした他、3月は課題に挑戦しながらのハイキングも実施した。中高生は、スキー講習でスキー検定に挑戦しレベルアップを目指した。スキー講習後の夕方や夜も屋外で活動し、かまくら作りやキャンドルナイトを行い冬の自然を体験した。

被災者支援事業へのご寄付で福島県の子どもたちをキャンプに招待した。詳しくは、被災者支援事業を参照。

すべてのキャンププログラムで、講師、プログラムリーダー、調理・保健スタッフの他、キッチンヘルパーやボランティアの協力により実施することができた。大学生や若手リーダーも活躍した。

*子どもキャンプと青少年リーダー養成において、独立行政法人国立青少年教育振興機構の助成を受けた。

2. 体験学習

子ども会は、子どもクラブ「ももたろう」が、国領センターを主なフィールドに、全8回の月例活動を行った。小学生27人が登録。家庭や学校とは違う環境の中で思い切り体を動かす外遊び、興味関心を広げる料理や工作、最終回には周辺の地域を散策するプログラムも実施した。多彩な活動を通し、子どもたち一人ひとりの個性が引き出され、皆で一緒に作り上げる楽しさを体験した。

プログラムは、青年リーダー10人が企画・準備・当日の進行を担当した。また、ジュニアリーダーとして中学生1人、高

校生1人が参加した。リーダー会では、毎回「個性を活かす」「コミュニケーションを活かす」「協力をしながら助け合う」などのねらいを設定しプログラムを計画し、子どもたちの様子や関係づくりなどについて丁寧に話し合った。

なお、武蔵野センターで実施していた子ども会活動と創作活動は、当該センターが武蔵野市の土地建物の取用に応じたことにより、移転先での事業継続が困難となったため廃止した。

自然体験は、東京近郊で四季折々の自然に親しむ家族対象の日帰り体験プログラムを5回実施した。神奈川県をフィールドとした磯遊びでは、講師の解説で生き物を観察した。また、NPO法人自然環境アカデミーの協力を得て、八王子の里山で田植えと脱穀を体験。収穫したもち米を使って1月には東京YWCA国領センターで餅つきを行った。海や里山での自然体験を通して子どもの関心を引き出し、家族で自然と触れ合う時間を共有するプログラムを展開した。

青少年水泳は、心身の健全な成長をめざし泳力を養うことを目的に、東京YWCA会館のプールにおいて、スイミングとシンクロの講習を通年で実施した。小学1年から4年男女を対象にした「ジュニア」2クラスは満員となり、キャンセル待ちが出たため、低学年の初心者対象のクラスを増設して受けとめた。一人ひとりに丁寧に对应し、個々の目標を設定しながら泳力の向上を目指した。夏休み前には着衣泳を行い水の安全について学び、12月には水中でのレクリエーションゲーム遊びや4年生対象のダイビングの体験会を実施し、水に親しむ機会を設けた。夏休みと春休みの短期講習もほぼ満員となり、5日間集中して泳力を養った。「ティーンズ」は小学4年から中学3年までの幅広い年齢層の女子を受けとめ、個々の泳力に応じた練習を重ねた。「ジュニアシンクロ」は、上半期は継続者が殆どだったが、下半期に新規参加者が増えて泳力差が生じた為、指導者を2

人体制にして習熟度別に練習を行った。

3. 学習支援

日本語を母語としない親を持つ子どもたちへの日本語・学習支援「いちごの部屋」は木曜、土曜の週2日実施した。子どもたちは楽しく学び、安定して通い続けた。ネパールの子どもが2名増え、初めて米国ルーツの子どもも加わった。

より良い支援のために、教育機関との話し合いや連携を強めた。中でも、中学1年で来日したネパール人の少年の高校合格は、家族、在籍校、教育委員会、YWCAの共通の喜びとなった。

「楽しく学ぶ」オリジナル教材を作成し、支援者が活用できるようにした。

津田塾大学の講義で活動紹介をし、同校の学生が支援者になるなど、大学との関係も強まった。現在、支援者の3分の1を20代が占めている。

支援者のスキルアップ、この事業の理解者を増やすことを目的に、公開研修会を8回実施した。

*運営費の一部は、「東京都在住外国人支援事業助成金」の助成を受けた。

4. 青少年リーダー養成

青少年活動に関心をもっている人、また現在関わっている人を対象に、宿泊トレーニングを含め全6回の研修を実施。夏前に「子どもの発達と心理」を学び、実際にコミュニケーションゲームを体験し、「チャイルドプロテクションへの理解」でハラスメント防止と子どもと自分を守る研修をした。野尻キャンプ場ではキャンプクラフトや自然理解の実習、冬のキャンプに向けては雪上安全講習とスキー実習を実施した。年間を通して必要な理論と実践講習を実施した。

「あすの野尻キャンプをいっしょにデザインしてみよう!!」を年3回実施。キャンプ場内の植生の観察、危険木の伐採や薪の準備、壊れたベンチの修復の他、キャンプ場内の木を伐採してキャンプサイトの案内板作成に着手した。

Ⅲ 女性の健康事業 (公益目的事業 事業番号：公3)

この事業は、運動の機会を必要とするすべての女性の心身の健全育成をはかることを目的とする事業です。



高齢である、身体に障がいがある、病後であるなど、運動をするには不安があり、配慮を必要とする女性でも安心して運動できるよう、ニーズに合わせた運動の機会を提供し、継続できるよう支援した。運動をして身体が動く喜びを感じることは、心身の健康を保ち、より良く生きることにもつながることを再認識した1年だった。今年度も多くのご支援を頂いたことに心より感謝したい。

1. 女性の健康づくり

サポートコースでは、体力の維持・向上や生活習慣病の予防などの目標に向けて、プールやスタジオ、ジムでの運動を、安全に効果的に継続していけるよう、一人ひとりを支援した。定期的に体成分測定と運動カウンセリングを行い、体力や健康状態に応じた運動計画を立て、活動量や食習慣などの生活習慣の改善に向けてアドバイスした。長年使用してきた体成分分析装置を10月に新しい機器に替えて、より精度の高い測定が可能となった。肥満指標や筋肉と脂肪のバランス、部位別筋肉量などの数値を参考に、身体がバランスよく発達しているか、栄養状態に問題がないかなどを評価した。

健康セミナーは、7月、2月の2回実施し、健康づくりに役立つ情報を楽しむ学び、体験する機会を提供した。7月の「楽しく学ぶ健康知識クイズ」では、高齢になっても元気であるために役立つ情報をクイズ形式で学んだ。熱中症、交通事故、お風呂での溺死など高齢者に多い不慮の事故について改めて認識することができた。講義内容はサポー

トコースメンバーに配布して情報の共有を図った。2月の「グランドアイチ～呼吸の話&呼吸体操」では、深い呼吸と運動した動きを繰り返して心身のリラックスを体感した。

からだところの健康相談は、隔月で実施し、女性の悩み、心配事、不安などの相談に応じた。

サポートコースメンバーの平均在籍者数は306人となり、昨年度より増加した。新規登録者の年齢層は、10～70代にわたり、30代が25%、次いで50代が23%、40代が19%となった。運動不足による肥満の解消や更年期の体調不良の軽減、加齢に伴う筋肉の減少の改善など、個々の希望は多岐にわたっている。さまざまな年代の女性が安全に気持ちよく運動を行い、健康を維持増進できるよう、今後も利用者のニーズに沿った運動プログラムの提供が必要とされている。

2. 疾患後の女性の健康づくり

a 乳がん手術後の女性のためのプログラム (アンコア)

アンコアは、乳がん手術後の女性を対象に、術後の腕や肩の運動障害の改善とQOLの向上を目的とする全8回のプログラムを、5～7月、10～12月の2期実施した。各期16名定員のところ2期とも満員となった。乳腺外科医、リンパセラピスト、栄養士など各分野の専門家を招いて術後の生活に役立つカリキュラムを組んだ。参加者の年齢層は30代から70代と幅広く、40～50代が最も多かった。手術後経過年数は1～2年の人がほとんどだった。回を重ねるにつれ、スタジオとプールで行うエクササイズにも慣れて積極的に参加する姿がみられた。参加者の情報交換の回では、お互いの状況を聞きあいながら手術や治療による体の変化や不調についての戸惑いや辛さについて共有した。乳腺外科医による講義は、検査の頻度、術後の痛み、治療の副作用、乳房再建など術後の生活の参考となる内容で、好評だった。リンパマッサージ法では、リンパ浮腫を防ぐためのセルフマッサージの方法や生活の中での注意点などが話された。最終回に実施するアンケートでは、「体力が回復して体を動かそうという意識が持てるよ

うになった。」「気持ちが前向きになった。」などの感想が多く聞かれ、同じ経験を持つ仲間と心置きなく話して情報を共有できたことや、専門家による話を聞いたことへの評価も高く、心身両面への効果がうかがえた。また、運動、講義、情報の共有を組み合わせた盛りだくさんのプログラムのため、時間に余裕がないという意見が参加者から出ていたため、着替えを開始前に済ませる、ティータイムを設けずフリードリンクにするなどの工夫をした。

9月にはアンコア修了者を対象に「タイチーダンス」「水中ウォーキング」の体験会を行い21人が参加した。

b 腰・膝の関節痛の予防、改善のための水中運動（ディープウォーターウォーキング）

腰や膝に痛みや不具合を抱える人が、日常生活動作を楽に行えるようになることを目的とする水中運動「ディープウォーターウォーキング」は、定員16名のクラスを3クラス実施し、年間通してほぼ満員となった。水中歩行と水深3.5メートルの深さを活用した水中運動により、下半身や体幹の筋肉を強化し、柔軟性を高めて、日常生活での膝や腰への負担を軽減することを目指した。参加者の体力や習熟度に応じた運動プログラムを指導し、各期開始時には姿勢チェック、終了時には効果を確認するアンケート調査を実施した。アンケートからは、「痛みが軽減した。」「体が動かしやすくなった。」「膝や腰が軽くなった。」「靴下を立ったまま履けるようになった。」「階段の昇降がスムーズになった。」「歩幅が大きくなり歩行速度が速くなった。」など身体的効果を多くの人があげている。「家の中や電車で立っている時、腹筋を意識するようになった。」など、日常的に良い姿勢を心掛けるよ

うになったとの声も多くきかれた。また、「旅行や友人との集まりに積極的に参加できるようになった。」「前向きになった。」「体が楽になって若返った。」など生活が活発になり、心身共により良い状態を保っている様子が伺えた。

3. 障がい児・者の健康づくり

a 肢体不自由者水泳（あひるの会）

肢体不自由者が水泳を通して喜びと自信を得られるよう、ボランティアがマンツーマンで水泳指導を行っている「あひるの会」は、木曜A・Bコースを年39回、土曜Cコースを年22回実施し、登録者13名を受けとめた。Aコースは、あひるの会に参加して、深い所で一人でも泳げるようになり安全が確認された人を対象とし、陸上とプールでの介助が必要な人はB・Cコースで受けとめた。新規のメンバーが1名加わり、子どもの頃にあひるの会に参加していた1名も20数年ぶりに復帰した。参加者はボランティアと交流しながら水泳や水中運動を楽しんだ。土曜Cコースには、小学生と仕事を持っていて平日来られない人が参加した。土曜の参加希望は増えてきており、車いすの人の介助に関わるボランティアの体制づくりが課題となっている。今年度ボランティアは新しく4名加わり、オリエンテーションや勉強会を実施し、養成にも力を入れた。参加者の様子や介助する際の注意点を確認し、車いすでの入退水の方法などについて実習を行った。

また、あひるの会60周年記念交流会を5月13日に開催し、51名が参加した。旧会館から現在にかけての参加者やボランティアが参加し、写真を上映しながら60年の歩みを振り返った。発足当時の活動を支えたボランティアの

エピソードや参加者の声を聞く貴重な機会となった。

*この事業では、社会福祉法人東京都共同募金会からの助成金を運営費の一部として実施した。

b 発達に遅れや偏りのある女兒の親子水泳（かめさんくらぶ）

発達に遅れや偏りのある女兒が、プールでお母さんと触れ合いながら水泳を習得することをめざし、隔週土曜日に年22回の講習を行った。泳力に応じたグループに分け、子ども一人ひとりの成長の段階や個性に合わせた指導を行った。前期は新規に2組が加わり、9組を受けとめた。新しい参加者も徐々に慣れて楽しみながら泳力を養った。学校行事や体調不良などによる休みも多く、全員が揃って参加することは少なかったが、参加者は個々の目標達成に向けて練習を重ね、前期と後期の最終日には手作りのメダルが配られた。3月3日にはプールに入る前に、2017年度のまとめの会を実施し、指導者と保護者間の情報交換の機会をもった。保護者からは水泳についての質問や子どもたちの様子についての話がでて、子どもたちの成長を確認する機会となった。今年度は、ボランティアを希望する大学生の間合せが増え、新しく4名が加わったが、学業や就職活動により3名が活動できなくなり、定着が課題となっている。

c アクアサポート

1人ではプールでの運動が難しい、身体に障がいのある人や高齢者のためのマンツーマンプログラムとして実施した。新規参加者1名が加わり、今年度は2名が継続して利用した。

IV 社会福祉に資する事業 (公益目的事業 事業番号：公4)

この事業は、一人ひとりが尊重され、その人らしく生きることのできる社会の実現を目指し、高齢者、障がい児・者とその家族、子育て家庭等の福祉の増進に寄与する事業です。

社会福祉事業では、法制度の改正や社会情勢の変動の中で、長期の見通しを持って安定した事業展開を行うことが常に課題である。また、法や行政の枠組みによらない東京YWCA独自事業のひとつであるDAISY事業が無事にスタートした。事業全体で多くの会員・ボランティアの関わりが得られ、ご寄付によって支えられた。心から感謝したい。

1. 療育事業

「東京YWCAキッズガーデン」は、今年度、児童福祉法に基づく「児童発達支援事業所」から障がい児支援の地域拠点の役割を持つ「児童発達支援センター」となり、「放課後等デイサービス」との多機能型として15年目を迎えた。その中では「相談支援」が必須事項となり、療育現場との連携の下トータルに家族支援ができるようになった。「給食提供」も必須となったが、一人ひとりのニーズに沿った食育を実践してきたお弁当と併用しつつ、親子にとっても職員にとっても大きな発見の連続となる給食が子どもたちの楽しみとなった。



職員研修やスーパービジョンの充実により常に療育の質の向上に努めた。また、区内障害者自立支援協議会を始め各種団体や連絡会の一員として、地域の福祉・教育分野との連携協力関係の強化をすすめた。

青年期に入り成人した障がいをもつ人に対しては、NPO 法人東京YWCA福祉会が行う就労継続支援B型事業

に東京YWCA板橋センターの一部施設を無償貸与し、また同福祉会が行うグループホームも含め、寄付のほか、職員や会員、ボランティアが地域関係者とともに事業に協力、支援を行った。
*東京YWCAキッズガーデンは運営費の一部を、「板橋区児童発達支援センターサービス推進事業補助金」及び「板橋区障がい児療育訓練事業補助金」より補助を、「2017年度公益財団法人愛恵福祉支援財団 資金助成」より助成を受け実施した。

2. 発達支援相談事業

発達支援相談事業は、東京YWCA独自事業として心理の専門家による「子ども発達支援室」を実施した。発達に課題やニーズがあると行政機関や幼稚園、保育園等で指摘されたものの、子どもへの具体的な関わりに戸惑いを持つ親への具体的な助言の場として、役割を果たした。

3. 発達支援体験事業

板橋センターの発達支援体験事業は、「にじいろ教室」として3年目を迎えた。陶芸・ダンス・料理の体験活動を実施、各々の専門家と療育の専門職が協力して子ども一人ひとりのニーズに合った活動を展開した。

国領センターの発達支援体験事業

は、音楽・陶芸・サッカー活動をそれぞれ実施し、新しい参加者も含め、子どもたち一人ひとりの成長を促すことができた。

4. 障がい児家族支援体験事業

障がいのある兄弟姉妹をもつ児童と家族を対象に、今年度は3つの事業を行った。

障がい児「きょうだいの会」『きらりんこ』は、きょうだい児を対象に同じ立場の友だちやボランティアリーダーと心行くまで遊び交流するプログラムである。今年度は参加者が増えたことで、自然と子ども同士の交流が多くなり、つながりが深まった。会発足当初、「きらりんこ」メンバーだったOBが新たにリーダーとなって参加した。きょうだい児がリーダーとして活動に関わることで、今後のきょうだい児支援の活動の質が更に深まることが期待される。



障がい児「きょうだいの会」『いどばた』は、障がい児ときょうだい児を育てる母親たちの情報交換の場であり、語り合いの場である。「いどばた」は、板橋拠点で定期的に関き、子どもたちの成長とともに変化する課題について話し合う場となった。立ち上げメンバーが後輩の母親たちをサポートする場にもなり、メンバーの世代の広がりにつながった。

家族単位で参加交流するプログラムである**障がい児「きょうだいの会」『ふぁみりんこ』**は春にバーベキューを行った。

自然体験と様々な家族の出会いと交流を目的とした親子参加型プログラム**「いっぽの会」**は、今年度は実施できなかった。

5. 障がい児・者介護事業

「障がい児・者介護事業」は、障害者総合支援法に基づき、移動支援も含めて月間平均 123 時間程度のサービス提供を行った。昨年度と比較して実績自体は大差ない。対象者は子どもから成人、介護保険サービスと併用する高齢者まで年齢にも幅があり、対象者の持つ障がいも発達障がい、知的障がい、身体障がい、精神障がい等様々である。サービス提供するヘルパーは、こうした障がいの特性や個別のニーズに対してきめ細かな対応が必要とされるため、専門的な知識と技術、特に障がいの特性に合わせたより高度なコミュニケーション技術を得るための研修を重ね、ヘルパー同士が研鑽を積むことに努力した。

6. 高齢者介護事業

介護保険法に基づく「**居宅介護支援**」「**訪問介護**」では、より自立した生活を営み、地域で住み続けることができ

るように支援を行った。「**居宅介護支援**」では要介護状態にある高齢者に対してケアプラン作成等を行った。年度後半には他事業所から利用者引き継ぎの依頼があり数件受け入れた。地域で長期にわたり丁寧に支援を行ってきたことで信頼を得ていると感じられた。

「訪問介護」では、利用者は 2016 年度制度改正となった板橋区日常生活支援総合事業の対象となる、要支援 1、2 や自立と認定されたいわゆる軽度の方々が多く、要介護 1～5 までの方々を上回る状態であった。軽度の方には、できることは無理なく自ら主体的に生活を営めるような支援を充実させ、要介護状態にならないような関わりを継続した。そのため月例研修の内容をさらに工夫してヘルパーの支援力を高める努力をした。

「通所介護」は、休止中。

7. 高齢者電話相談事業

「シニアダイヤル」は、高齢者の「孤独な時」の身近な一人になることを目的とした電話相談事業で、22 年目を迎えた。昨年度の「**新人相談員養成講座**」修了者 4 人が新たに相談員として加わった。近年、相談者から電話がつながりにくい、という声があり、今年度から相談者 1 人の電話回数を 1 日 2 回までとした。より多くの相談者の電話を受けられたという印象がある。

相談者の大半は女性で占めており、「人生」「対人」「家族」「健康・医療」についての内容が多かった。広報に力を入れ、事業の周知に努めた。

相談対応の質的向上とより良い運営を目的として、毎月研修を行った。相談事例を取り上げ日頃の電話相談を振り返り、専門家の指導を受けた。

今年度の新人養成講座は 9 月から 12 月にかけて実施し、7 人が修了した。

8. 介護予防体験事業

「ティーポットサロン」は、高齢者が地域で交流の場を持ち、豊かな時間を過ごすことで心身の健康を維持することを目的としている。今年度も調布市や地域からの期待に応え、3 クールの活動を行った。リピーターが多く、参加者のさらなる高齢化が進む中、サロンが貴重な外出の機会になっているという声もある。今年度は内容に変化を持たせるよう工夫した。

「**男の料理教室**」は 6 年目となり、台湾料理をテーマに多くの参加者を得た。講師の実力と人柄に支えられ、毎回和やかな雰囲気の中料理を学んだ。

*この事業は調布市の高齢者健康づくり補助事業の一環として、補助金を得て実施した。

9. 統合保育事業

「東京YWCAまきば保育園」は、調布市の認可保育園として、一人ひとりの個性を大切に、自らが育っていく力を信じ、子どもたちが主人公の保育を継続してすすめた。子どもたちが遊びを通して育つ姿が随所に見られ、保育を支える専門職の成長も併せて確認することができた。「まきばの保育」への保護者の理解は懇談会、園便り、日々の保育の連絡帳他を通して深めることができた。毎年園が実施することを義務付けられている利用者アンケートでは、100%の保護者から「園の保育内容に高い評価」とする結果を得た。

保育園の「**地域子育て支援拠点事業**」対象事業として、未就園児（0～3 歳）とその保護者を対象にした「**たんぼぼ広場**」は、ボランティアの変わらぬ協力を得て継続し行った。地域ニーズは大きくこれを受けて体制を強化した。子育て支援と食育に関して長年の経験と実績を持つ専門職を配置し、大変好

評であった。地域交流事業として、オータムフェアとクラシックコンサートも開催した。

10. 読むことが困難な人々への支援事業（DAISY）

「読むことが困難な人々への支援事業」は、2017年度からの新規事業である。マルチメディアデジターという新たな技術を用いて発達障がいや知的障がい児・者、高齢の方等、通常の紙の書籍での読書に困難のある方に向けた「読むこと」の支援を始めた。ボランティアが読み上げる文章とパソコン画面上に映し出される文字が同期して黄色く反転し、読み手の理解を助けるもので、絵本や教科書等の制作物を学校や図書館に提供したり個別オファーに

応じる。今年度は特に、音訳の基礎、音声デジター、マルチメディアデジターの講習会を実施し、担い手となるボランティアの養成に力を注いだ。



11. 学童保育事業

学童保育事業は、調布市から委託を受けた公設民営の「調布市立わいわい学童クラブ」が9年目となり、「小学校内学童クラブ(染地小・布田小)」2カ所と「放課後子供教室ユーフォー(杉森小・染地小・布田小)」3カ所の

運営を引き受けて3年目となった。

学童クラブは働く保護者を支える子どもの育成の場として、ユーフォーは自由な遊びの場として、子どもたちにとって安心・安全な場になることを目指し、学校や地域、保護者や父母会との連携を丁寧に進めることを心掛けた。

学童クラブでは、障がい児や要配慮児、アレルギー対応児を含め在籍児一人ひとりにとって第二の家庭となるよう、日々の振り返りや研修に力を注いだ。ユーフォーでは、職員集団のチーム作りと学校や学童との連携、行事の充実にも更に努力する1年となった。

職員のスキル向上のため、マネージメント力や子どもへの育成の質を問う研修を実施した。小学校とのミーティングは月1回実施。管轄地域の染地児童館運営委員として地域子育て支援に協力等地域での役割にも力を注いだ。

V 非営利機関・団体への施設貸与事業

(公益目的事業 事業番号：公5)

この事業は、この法人の目的と共通性のある目的をもつ非営利の機関及び団体にこの法人が所有する施設を貸与する事業です。

この事業では、東京YWCAと共通性のある目的を持つ非営利の機関、団体に、東京YWCA会館の部屋を貸与している。新たに2室を貸室とし、2

階と3階を合わせた14室に11の財団、社団、NPO、社会福祉法人が入居している。また地下から2階までの部屋で当法人が使用しない時間には、貸し会議

室として提供した。

東京YWCA会館の施設を活用し、使命を持つ非営利団体の活動を間接的に支援した。

VI 東日本大震災被災者支援事業 (公益目的事業共通)

東京YWCAで持っている専門性とネットワークを使い、東京YWCA全体で被災者支援に取り組んだ。2017年度に計画した事業は、個人、団体、企業からのご寄付と助成金、ボランティアによって、無事実施することができたことに改めて感謝したい。

1. 放射能被害への支援

放射線の値が高い地域に住む子どもと保護者を対象とした転地保養（リフレッシュ）プログラムは、2016年度から東京YWCA野尻キャンプ場ゆかりハウスで実施する一般向けキャンプに福島枠をつくり、福島県内の中間支援団体を通して募集している。2016年秋からいわき市で震災直後から放射能を測り続けている母親たちのNPO法人いわき放射能市民測定室たらちねと関係づくりをはじめた。たらちねは、親子が参加できる短いプログラムを実施している協力団体を探していた。東日本大震災全国ネットワーク（JCN）を通していわき市の子育て支援ネットワーク事務局を紹介してもらい、5月にたらちね事務所と子育て支援ネットワーク事務局を訪ね、市内の状況や活動を聞き、転地保養プログラムへの協力をお願いした。たらちねはこの子育て支援ネットワーク15団体の1つでもある。このネットワークを通して、夏のキャンプにいわき市で活動する重症心身障がい児・者と家族の会（スマイルリボン）の3家族12人を招くことができた。おそらく震災以降一度も県外に出たことのない子どもたちだった。はじめは母親から離れられなかった子どもも、一般参加の親子も含め30人ほどと散策や湖での水遊びや、大人数で食卓を囲むうち、気持ちがあぐれ、楽しい2泊3日を過ごすことができた。「障がいをもつ子どものきょうだいが楽しく過ごしているのを見てうれしかった」「私が見ているから少し休んで」とナースにってもらえた。初めてほっとすることができた」と母親たちから感想があった。キャンプスタッフも、子どもたちの顔色がだんだんよくなって

いくのがわかったとのことで、陰で支えたキッチンスタッフ、ナース、リーダーの力が大きかった。12月にいわき市の子育て支援ネットワークが開いたフェアを訪ね、15団体と交流し、2月はネットワーク定例会で次年度の説明を行った。スマイルリボンはNPO法人を取得し、今後は東京YWCAの療育事業との交流も望んでいる。



(写真) スマイルリボンの家族

2. 被災地支援

産直応援として、東京YWCA会館で実施した東日本大震災支援バザーで、宮城、福島の障害者施設や仮設住宅で作られた商品を扱い、福島県の日本橋ふくしま館が出店した。

3. 放射能被害により東京近郊に避難している人への支援

東京近郊に避難している人を対象とした広域お茶会等の実施は、第7回東京YWCA東日本大震災支援バザーで広域避難者のお茶会を開き、災害復興まちづくり支援機構の協力で弁護士による専門家相談と福島県職員による情報提供を実施した。また、広域避難者支援連絡会in東京にオブザーバー参加し、ふれあいフ

ェスティバルや広域避難者ミーティングの実施に協力した。

4. 啓発

被災地訪問スタディーツアーは、10月31日、11月1日に実施し、5年ぶりに石巻を訪ねた。東京YMCA石巻支援センターは仙台YMCAに引き継がれ、石巻広域ワイズメンズクラブが発足していた。ワイズメンズクラブの方から現在の状況や広域での活動を伺い、市内を案内していただいた。石巻日日新聞を訪ね、震災当時の様子を伺った。翌日は新地町に移動し、新地町社会福祉協議会職員で元新地町災害ボランティアセンター長に整備の進む沿岸を案内していただいた。津波で流され2016年12月に復旧したJR新地駅から帰京した。

第7回東日本大震災支援バザーは、準備期間を含め延260人のボランティアが参集した。近隣大学や留学生のボランティア参加があり、東京でできる被災者支援として定着している。

チャリティー講座は、講師の協力でドイツ文学講座を開講することができた。また2年ぶりにチャリティーコンサートを開いた。カフマンホールは満席となり盛会のうちに終了した。

2016年4月の熊本地震を覚え、東日本大震災支援とともに熊本も忘れないことをアピールし、現地で被災者支援に取り組む小さい団体を応援するためにはじめた募金活動は、200円の募金に対し「熊本を応援しよう！ 寄付つき缶バッチ（くまモンバージョン）」1個を配布し、今年度は3月末で760個、募金額は203,518円となった。3千個製作したバッチは残りが621個となった。

Ⅶ 収益事業および共益的な事業

1. 不動産賃貸事業

東京YWCA会館4階から8階の5フロアと、1階から3階の3室を、企業、団体等に、年間を通して賃貸した。また、他の部屋に関しては、法人が利用していない時間帯に貸し会議室として、貸し出しを行った。東京YWCA会館の月極めの駐車場は22台分のうち、17台分がうまっている。

東京YWCA会館のテナントフロアの空調更新工事を計画していたが、実施しなかった。

2. フィットネスクラブ事業

収益を目的に運営する女性専用フィットネスクラブでは、体力づくりや余暇の充実などさまざまな目的を持った女性がプール、スタジオで自主的にトレーニングできるように場を提供している。年数回のキャンペーンをおこなって入会促進を図った。女性専用の総合運動施設としてメディアでの紹介やインターネット検索を通し、20代から60代を中心に113人の入会があったが、ほぼ同数の退会も生じ、年間平均在籍は前年度より微減の397人だった。成人のスクールは水中ウォーキング、シンクロ、ヨガなどのクラスが好調であった。新たに認知症予防エクササイズのクラスを東京都健康長寿医療センターの協力を得て実施した。

快適な運動の場を提供し、より多くの利用者受け入れを目指し、見学者等への丁寧な対応をおこなった。

3. クラス事業

生涯教育の視点に立ち、人格の向上や教養を深めることを目的に講座を行うことを計画したが、実施に至らなかった。

4. 販売事業

東京YWCA会館の飲料自動販売機、有料コピー機、古本の無人販売を実施した。

5. 理解普及事業 (会員グループ)

この法人の会員と将来的な会員が、法人の目的と事業に対する理解を深めることを目的に、学び、祈り、奉仕活動などをテーマにグループをつくり、グループ活動を通してメンバーの親睦を深め、一人ひとりのリーダーシップを培った。

2017年度は、板橋センターの児童発達支援センター化や武蔵野センターの移転で8グループの解散ではじまったが、新たに3グループが発足し、58グループとなった。

東京YWCAの目的とする、平和な社会の実現に向かって、会員がエンパワーされ、大いに力を発揮するための大切な場となっている。

数字・資料で見る東京YWCAの事業活動

I 平和と人権事業

I-1 日本で学ぶ外国人留学生支援事業(「留学生の母親」運動)

I-1-a 家庭交流

「組み合わせ」内訳(人)

会員	65
留学生	69

「組み合わせ」の会員内訳(人)

新会員	17
2年目以上の会員	48

「組み合わせ」の留学生内訳(人)

国費生 (文部科学省)	16
日本語学校	11
専門学校	7
大学	22
大学院他	13

留学生資金貸与

前年度より継続返済	0
新規	
長期貸与	0
短期貸与	0

留学生組み合わせ出身国・地域

国・地域	人数	男性	女性
中国	29	12	17
タイ	7	4	3
インドネシア	2	1	1
ベトナム	2		2
台湾	8	1	7
韓国	2	1	1
中国(香港)	1		1
シンガポール	2	1	1
マレーシア	1		1
ロシア	2		2
カメルーン	1	1	
アメリカ	1		1
イラン	1	1	
オランダ	1	1	
ドイツ	1	1	
コロンビア	1	1	
ブラジル	1		1
インド	1		1
ハンガリー	1		1
モンゴル	1	1	
マダガスカル	1		1
オーストラリア	1		1
セルビア	1		1
	69	26	43

支援事業の年間プログラム

	延参加者数				合計
	運営(会員)	会員	留学生	一般	
留学生のための「組み合わせ」説明会	6	4	113	-	117
留学生組み合わせ申し込み	6	75	66	33	174
組み合わせ「対面の会」	5	65	70	4	139
留学生による日本語発表会・クリスマス会	4	54	33	0	87
卒業お祝い会	9	15	12	2	29
第1回母の会 テーマ: どうなる? どうする? どうしたい? ! 「留学生相談室」と『留学生と私たちの歩み』	12	48	-	-	48
第2回母の会 テーマ: みんなの運動にするために… こんな活動ならできる! こんな活動にしたい! それぞれの会員の力を活かすためにはどうしたらよいか?	4	54	-	-	54
勉強会「クラウドを活用した情報・スケジュール管理」	1	23	-	-	23
勉強会「ボランティアが話をきくということ」	1	22	-	-	22

I-1-b 留学生相談室

	開室日数	延ボランティア数		延相談件数/参加者数
		会員	一般	
留学生相談室	91	242		1527件
日本語支援「火曜ルーム」	42	214	124	326名
ショートホームステイ・ホームビジット		参加留学生: 37	受け入れ家庭: 30	

I-1-c 日本語支援

	延回数	延ボランティア数		延参加者数	
		会員	一般	外国人	一般
留学生談話室	45	288	292	680	0
日本語補習教室	0	-	-	-	-

I-2 留学生助成事業

「留学生の母親」運動奨学金

応募者数	71
------	----

支給奨学生内訳〔国・地域別〕

ベトナム	1
韓国	1
中国	1
計	3

	運営 (会員)	延参加者数			合計
		会員	留学生	一般	
第1回奨学生報告会	5	23	3	0	31
第2回奨学生報告会	5	9	2	3	19
奨学生の集い	5	13	2	4	24

I-3 中国帰国者日本語支援事業

I-3 日本語サロン

延回数	延ボランティア数	延参加者数
120	309	1011

I-4 平和をつくるキャンペーン

クリスマス

	回数	参加者数	
青葉のまつり	1	50	※概数
Christmas for Peace 2017	1	52	

非戦、非核、非暴力をともに考える学習会「憲法カフェ」

テーマ	講師(当時)	参加者数
第29回 「施行70年を迎える日本国憲法をもっと知ろう！」	古関彰一(和光学園理事長)	48
第30回 「沖縄の基地と女性の人権」	北原みのり(ラブピースクラブ代表・作家)	53
第31回 「環境と人権」	島 昭宏(弁護士)	20

日本YWCA「地域YWCAを主体とした活動」ユースのための憲法カフェ

テーマ	講師(当時)	参加者数
テーマ:仕事 自分らしく働きたい	島 昭宏(弁護士)	11
テーマ:教育「あたりまえ」はひとつじゃない	中野晃一(上智大学教授)	6

むさしの平和チーム 実施プロジェクト

テーマ	回数	参加者数
講演会 「沖縄 非暴力の闘いに学ぶ旅」に参加して	1	27
糸洲のぶ子さんを囲んで	1	8
上映会 『知事抹殺』の真実	1	74
金井創牧師を迎えて 沖縄の“今”を聞く	2	63
正子・R・サマーズ展(11/20～25)	1	143
上映会 「日本と再生」&トーク河合弘之弁護士	1	106
上映会 「Born Again ～画家 正子・R・サマーズの人生～」	1	22

他団体との協力

0422市民クリスマス	
回数	1
参加者数	300

※他団体との共催イベントで参加者は概数。

I-5 平和と人権に関する人材育成事業

【支援者サロン(DV被害者支援者の交流の場)】

延回数	延参加者数
6	16

【支援者トレーニング】

	回数	参加者数
DVサバイバーと協働するための支援者トレーニングin秋田	1	25
DVサバイバーと協働するための支援者トレーニングin大阪	1	21
DVサバイバーと協働するための支援者トレーニングin静岡	1	24
DVサバイバーと協働するための支援者トレーニングin熊本	1	25
支援者トレーニング フォローアップ研修in秋田	1	20
支援者トレーニング フォローアップ研修in大阪	1	11
支援者トレーニング フォローアップ研修in静岡	1	19

【オーダーメイド研修】

依頼元	回数	内容	延受講者数
埼玉県婦人相談センター	1回	DVサバイバーとの協働をめざす援助技術～ロールプレイ実践と検討～	52
徳島県中央こども女性相談センター 徳島県南部こども女性相談センター(共催)	1回	平成29年度DV被害者等支援ネットワーク研修会	47
社会福祉法人東京援護協会東が丘荘	5回	・職員学習会3回(境界線について/SFRチームの実践について/ チームビルディング) ・セルフケア研修2回	40
社会福祉法人 特別区人事・厚生事務組合 社会福祉事業団 更生施設 しのばず荘	2回	アンガーマネジメントについて	21
社会福祉法人 特別区人事・厚生事務組合 社会福祉事業団 宿所提供施設 淀橋荘	2回	職員学習会2回(外国人のDV被害者支援について/DVの子どもへの影響について)	12
社会福祉法人新栄会 宿所提供施設・更生施設 ふじみ	1回	SFRチームの実践について	15
内閣府	3回	平成29年度内閣府「性犯罪被害者等支援体制整備促進事業」研修	118

I-6 NPO/NGO団体への語学支援

依頼団体	件数	依頼内容
オイコクレジット・ジャパン	2	活動内容紹介のための資料 和訳 オイコクレジット 活動報告和訳
特定非営利活動法人シャイン・オン・キッズ	3	ハンドラー候補者の履歴書和訳 ファシリティードクトレーナーによる研修の通訳 ファシリティードック写真展 開会式・イベントでの通訳
公益社団法人Civic Force	3	ニューズレターvol.11 英訳 ニューズレターvol.12 英訳 ニューズレターvol.13 英訳
一般社団法人アジアパシフィックアライアンス	1	5周年記念誌 英訳
公益社団法人日本キャンプ協会	1	2016年次報告書
認定NPO法人国境なき子どもたち	1	2016年度活動報告 英訳
公益社団法人シャンティ国際ボランティア会	2	2017年次報告書 英訳 絵本1冊 英訳
NCC日本キリスト教協議会	1	世界祈祷日スライド説明文 和訳
特定非営利活動法人ホームスタート・ジャパン	2	ホームスタート・ワールドワイド・グローバル・カンファレンス 2017東京 国際シンポジウム資料和訳 ホームスタート・ワールドワイド・グローバル・カンファレンス 2017東京 国際シンポジウムでの通訳

	延回数	延講師数	延参加者数
翻訳研修会	2	2	31

II 青少年育成事業

II-1 教育キャンプ

*人数は実数

プログラム	日数	参加者数			リーダー・講師数	参加人数合計
		男	女	合計		
教育キャンプ(東京YWCA野尻キャンプ場)						
年長児～小学2対象「わいわいキャンプ」	3泊4日	15	16	31	15	46
小学3～6対象「アドベンチャーキャンプ」	4泊5日	8	28	36	13	49
中高生女子対象「スーパーチャレンジ・ガールズキャンプ」	7泊8日	0	14	14	14	28
サバイバルキャンプ	3泊4日	0	6	6	7	13
信濃町在住小学1～6対象「子どもキャンプ」	1泊2日	14	19	33	10	43
「カヌーキャンプ」	2泊3日	4	10	14	2	16
ファミリーを対象としたキャンプ						
ファミリーキャンプ	2泊3日	8	14	22	6	28
春をみつけにでかけよう	2泊3日	16	21	37	2	39
秋をみつけにでかけよう	2泊3日	5	18	23	1	24
ペタウリスタの森で雪遊び	1泊2日	7	12	19	2	21
教育キャンプ(菅平高原)						
冬小学生スキーキャンプ「ぴよんぴよんスキークラブ」	3泊4日	18	27	45	13	58
冬中高生スキーキャンプ	3泊4日	3	13	16	4	20
春休み小学生「ぴよんぴよんスキークラブ」	3泊4日	13	21	34	10	44
他団体からの委託キャンプ *参加者は男女総数						
北里大学看護専門学校	2泊3日		48	48	7	55
恵泉女学園大学	3泊4日		12	12	5	17
恵泉スキー(委託キャンプ)	3泊4日	—	16	16	1	17
野尻キャンプ場を提供しYWCAのキャンプリーダーを派遣して行うキャンプ *参加者は男女総数						
日本基督教団竜ヶ崎教会キャンプ	3泊4日		40	40	4	44
日本基督教団東京教区東支区中高生キャンプ	3泊4日		30	30	4	34

II-2 体験学習

子ども会

	延回数	延ボランティア数	延参加者数
子どもクラブももたろう(国領)	8	60	173

親子で楽しむアウトドアライフ

プログラム名	延回数	延参加者数			延リーダー・講師数	延参加人数合計
		男	女	合計		
初夏の海で磯遊び	1	13	19	32	4	36
どろんこ田植え体験	1	14	28	42	3	45
わくわく里山遊び	1	5	9	14	4	18
大発見！海辺でお宝探し(最低催行人数に満たず中止)	0	0	0	0	0	0
みんなでザクザク！稲刈り体験(台風のため中止)	0	0	0	0	0	0
脱穀&わら細工体験	1	5	8	13	2	15
もちつきとネイチャーゲーム	1	12	25	37	5	42

青少年水泳

	延回数	延参加者
ジュニアスイミング	108	2008
ジュニアシンクロ	40	375
ティーンズスイミング	38	345
ジュニア短期講習(春1期、夏3期)	20	413

Ⅱ-3 学習支援

日本語を母語としない親を持つ子どもとその保護者を対象にした日本語および学習支援

延回数	延ボランティア数	延参加者数(子ども)	延参加者数(保護者)
92	585	408(実数14)	7(実数1)

ボランティア研修会

延回数	延講師数	延参加者数(ボランティア)
8	14	112

特別プログラム

	回数	参加者数	講師・リーダー数
楽しい科学実験	1	10	15

Ⅱ-4 青少年リーダー養成

	期間・日数	参加者数(宿泊ないものは延数)			リーダー・講師数	参加人数合計
		女	男	合計		
リーダーオリエンテーション	4回	6	0	6	0	6
リーダートレーニング	2回	16	11	27	2	29
リーダートレーニングキャンプ	1泊2日	2	2	4	3	7
スキーリーダートレーニング	1回	3	6	9	1	10
スキーリーダートレーニングキャンプ	2泊3日	4	3	7	2	9
春のワークキャンプ	5泊6日	8	10	18	0	18
第1回 あすの野尻キャンプをいっしょにデザインしてみよう!!	1泊2日	1	5	6	2	8
第2回 あすの野尻キャンプをいっしょにデザインしてみよう!!	1泊2日	0	3	3	2	5
第3回 あすの野尻キャンプをいっしょにデザインしてみよう!!	1泊2日	1	4	5	2	7
合計		41	44	85	14	99

Ⅲ 女性の健康事業

Ⅲ-1 女性の健康づくり

サポートコース利用者数

延入会者	延退会者	3月末在籍者
79	74	305

健康セミナー

テーマ	参加者数
楽しく学ぶ健康知識クイズ	10
グラウンドアイチ～呼吸の話&呼吸体操～	47

健康相談

	延回数	延利用者数
からだの健康相談	4	5
こころの健康相談	4	7

Ⅲ-2 疾患後の女性の健康づくり

	延回数	延参加者数
乳がん手術後の女性のためのプログラム	16	223
腰・膝の関節痛の予防、改善のための水中運動	128	1513

Ⅲ-3 障がい児・者の健康づくり

	延回数	延参加者数	延ボランティア数
肢体不自由者水泳(あひるの会)	100	272	284
発達に遅れや偏りのある女児の親子水泳	22	224	19
アクアサポート	61	61	

IV 社会福祉に資する事業

IV-1 療育事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
キッズ ガーデン	延日数	15	19	22	21	16	20	22	20	20	16	19	20	230
	延実績利用者数	278	363	442	376	313	400	450	436	423	338	404	420	4643
	延べ実習生人数	0	21	30	11	6	19	25	28	4	5	0	20	169
シマウマ	延日数	3	3	3	3	3	3	4	2	3	3	3	3	36
	延実績利用者数	38	29	36	37	29	36	43	16	26	34	32	35	391
	延べ実習生人数	0	12	12	8	0	12	16	8	4	0	0	0	72

*キッズガーデン:障がい児(未就学児)児童発達支援事業。 シマウマ:障がいのある小中高生のための放課後等デイサービス(土曜)

	延回数	延参加者数		延回数	延参加者数
保護者会(キッズガーデン/シマウマ)	6	110	研修セミナー	0	0
保護者勉強会(キッズガーデン)	9	49	統合保育研修会	4	109
連携訪問者(キッズガーデン)	5	5			

IV-2 発達支援相談事業およびIV-3発達支援体験事業

		延回数	延参加者数
発達支援相談事業	子ども発達支援室(板橋)	31	76
	OT相談室(板橋)	-	-
	療育個別相談(国領)	-	-
	療育グループ(国領)	-	-
障がいのある 子どものための 体験学習	陶芸(小学生以上対象)(国領)	11	47
	音楽療法(幼児から中学生)(国領)	11	40
	サッカークリニック 1(小学1~2年生)(国領)	8	55
	サッカークリニック 2(小学3年生以上)(国領)	8	58
	カシオペイア(集団生活スキル 小学生~中学生)(国領)	0	0
	サポートプログラムにじいろ教室(陶芸)(板橋)	12	81
	サポートプログラムにじいろ教室(ダンス)(板橋)	11	47
サポートプログラムにじいろ教室(料理)(板橋)	3	29	

IV-4 障がい児家族支援体験事業

	延回数	延ボランティア数	延参加者数
家族サポート(きょうだいの会 こどもの会 きらりんこ)	4	15	36
家族サポート(きょうだいの会 お母さんのためのいどばた)	6	-	30
家族サポート(きょうだいの会 家族のためのふぁみりんこ)	1	-	59
親子参加型の自然体験プログラム(いっぽの会)	0	-	-

IV-5 障がい児・者介護事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在籍利用者数		13	13	12	13	13	13	14	15	15	15	15	15	166
実績利用者数		11	12	12	12	12	12	14	15	14	14	15	15	158
訪問回数	居宅介護	56	56	58	55	57	59	54	59	59	60	57	65	695.0
	移動支援	16	15	19	13	15	14	18	20	20	15	18	23	206.0
	合計	72.0	71	77	68	72	73	72	79	79	75	75	88	901.0
訪問時間	居宅介護	80	87	83	83	90.5	95	81.5	100	93	91	86	108	1,078.00
	移動支援	31	29	44.5	26	27	26.5	31.5	30.5	44.5	29.5	36	39.5	395.50
	合計	111.00	116.0	127.50	109.00	117.50	121.5	113	130.50	137.5	120.50	122	147.50	1,473.50

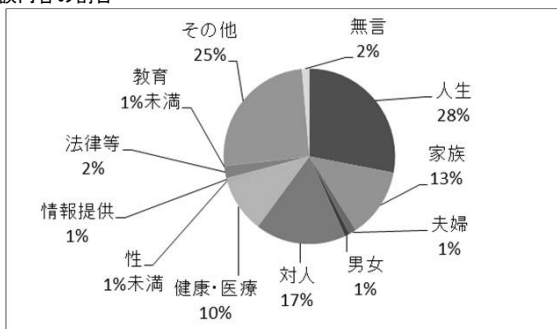
IV-6 高齢者介護事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
居宅介護 支援	在籍利用者数	22	22	22	22	21	20	28	27	26	26	26	26	288
	実績利用者数	21	19	22	21	20	19	19	26	25	25	25	25	267
	認定調査	5	5	3	2	6	4	0	2	3	3	5	5	43
訪問介護	在籍利用者数	22	21	21	20	18	19	18	19	21	18	18	19	234
	実績利用者数	22	21	21	20	18	19	18	18	19	17	18	19	230
訪問回数	要介護1~5	71	69	79	60	60	58	38	23	21	24	23	25	551
	要支援1~2	58	57	58	54	61	53	68	62	69	68	65	74	747
	自由契約	1	3	2	4	0	1	0	2	14	1	3	5	36
	合計	130	129	139	118	121	112	106	87	104	93	91	104	1,334
訪問時間	要介護1~5	71.5	71	81	62.5	62	60	40.5	25	23	26	25	27	574.5
	要支援1~2	56	55	55.75	52	58.75	50.75	66	59.75	66.75	66	63.5	71.75	722
	自由契約	3.5	8.5	4.75	10	0	1	0	3	35.25	2.25	3.75	8.5	80.5
	合計	131	134.5	141.5	124.5	120.75	111.75	106.5	87.75	125	94.25	92.25	107.25	1,377
通所介護	実績利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	開所日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延べ人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボランティア人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

IV-7 高齢者電話相談事業

シニアダイヤル（孤独なときの身近な相談相手としての電話相談）	
延開室日数	271
延相談員数	509
年間相談件数	2154

相談内容の割合



IV-8 介護予防体験事業

	延回数	延参加者数
ティーポットサロン（地域に開かれた交流の場）	26	496

IV-9 統合保育事業

まきば保育園（国領）	年齢	在籍者数(3月末)
	0歳	9
	1歳	16
	2歳	16
	3歳	19
	4歳	19
5歳	19	
実習生受け入れ(年間延人数)		81

IV-10 読むことが困難な人々への支援事業(DAISY)

登録ボランティア数	35
-----------	----

ボランティア講習会

講座名	回数	講座日数	講師人数(アシスタント含)	延参加者数
音訳講習会(基礎編)	1	3日	1	51
音声デイジー製作講習会	1	3日	5	43
マルチメディアデイジー製作講習会	1	2日	9	20

IV-11 学童保育事業

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
わいわい学童クラブ	在籍数	66	64	64	66	63	55	53	52	50	48	47	47	675
	開所日数	24	24	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26	293
	延べ利用者数	995	982	976	775	942	819	804	740	646	500	633	705	9517
染地小学童クラブ	在籍数	26	27	27	27	27	26	26	26	26	25	25	25	313
	開所日数	24	24	24	25	26	24	25	24	23	23	23	26	291
	延べ利用者数	454	473	522	466	380	450	461	429	374	313	382	431	5135
布田小学童クラブ	在籍数	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	840
	開所日数	24	24	24	25	26	24	25	24	23	23	23	26	291
	延べ利用者数	1,260	1,224	1,344	1,236	997	1,203	1,252	1,227	1,105	945	1,045	1,214	14052
杉森小ユーフォー	開所日数	23	24	26	25	26	24	24	24	23	23	23	26	291
	延べ利用者数	690	694	717	749	554	757	679	689	582	363	480	533	7487
染地小ユーフォー	開所日数	23	24	26	25	26	24	24	23	23	23	23	26	290
	延べ利用者数	663	716	815	654	350	626	648	597	446	350	431	461	6757
布田小ユーフォー	開所日数	23	23	26	24	26	24	25	24	22	22	22	26	287
	延べ利用者数	567	692	853	696	426	586	554	446	460	314	398	417	6409

V 非営利機関・団体への施設貸与事業

非営利機関・団体優先フロア(賃貸契約) 貸し会議室(時間貸し)

貸与先団体数	11	貸与先団体数	15	貸与件数	103
--------	----	--------	----	------	-----

VI 東日本大震災被災者支援事業

	対象	日数	参加者数		
			女	男	合計
東京YWCA主催 ゆかりフリープラン	ファミリー	2泊3日	5	7	12

※東京YWCA主催の一般対象キャンプに福島の子ども枠で参加した人数

	回数	参加者数
第7回東京YWCA東日本大震災支援バザー	1	807
ひと味違うドイツ文学講座	3	56
第4回東京YWCA東日本大震災支援コンサート	1	191
第5回被災地訪問スタディーツアー	1	22

Ⅶ 収益事業および共益的な事業

Ⅶ-1 不動産賃貸事業

不動産賃貸(賃貸契約)

貸与先団体数	6
--------	---

貸し会議室(時間貸し)

貸与先団体数	21
貸与件数	88

ゆかりハウス

貸与先団体数	1
貸与件数	1

Ⅶ-2 フィットネスクラブ事業

在籍数

	延入会者	延退会者	3月末在籍数
フリーコースメンバー	126	123	388
法人メンバー	0	0	1

スクール

クラス	年間実施回数	累計参加者数	クラス	年間実施回数	累計参加者数
バレエ(土)	44	325	スイミング(ワオクラブ)フラミンゴ(月)	40	466
バレエ(月)	40	257	スイミング(ワオクラブ)カモメ(水)	40	442
ヨガ(金)	44	775	水中ウォーキング(水1)	40	668
ヨガ(月)	40	590	水中ウォーキング(水2)	40	648
転倒予防	40	285	水中ウォーキング(月)	40	341
身体調整	40	481	水中ウォーキング(土)	40	569
タイチーダンス	40	326	健康水泳	40	321
スイミング初級(水)	40	401	ダイビング(金)	40	139
スイミング初級(火)	40	315	日本泳法(火)	40	522
スイミング中級(金)	40	469	日本泳法(木)	40	136
スイミング中級(木)	40	459	シンクロナイズドスイミング(火)	40	380
スイミング中級(月)	40	591	シンクロナイズドスイミング(木)	40	669
スイミング上級(火)	40	667	シンクロナイズドスイミング(金)	40	541
スイミング上級(水)	40	259	スイミング4回講習	40	325
			認知症予防をめざしたレクササイズ	12	94

パーソナルレッスン	延参加者数
スタジオマンツーマンレッスン	335
プールプライベートレッスン	155

Ⅶ-3 クラス事業

2017年度実施なし

Ⅶ-5 会員グループ(理解普及事業)

グループ登録数	グループ登録者数		
	会員	一般	合計
57	258	61	319

Ⅷ その他

Ⅷ-1 会員数

	人数
成人会員(18歳以上の女性)	773
年少会員(18歳未満の女性)	0
成人会友(18歳以上の男性)	30
年少会友(18歳未満の男性)	0
賛助会員	35
合計	838

Ⅷ-2 職員数

常勤職員(2018年3月31日現在) 103人

Ⅷ-3 事業に参加したボランティア

事業名	ボランティア延人数	ボランティア延時間
I 平和と人権事業		
事業部共通事項	14	33
1 日本で学ぶ外国人留学生支援事業	1184	4041.5
2 留学生助成事業	70	237.5
3 中国帰国者日本語支援事業	281	436.5
4 平和をつくるキャンペーン事業	75	154.5
5 平和と人権に関する人材育成事業	79	215
6 NPO/NGO団体への語学支援	66	132
	1769	5250
II 青少年育成事業		
1 教育キャンプ	160	1887
2 体験学習	138	757
3 学習支援	660	1948
4 青少年リーダー養成	61	376
	1019	4968
III 女性の健康事業		
3 障がい児・者の健康づくり	318	477
IV 社会福祉に資する事業		
7 高齢者電話相談事業	558	2182.5
10 読むことが困難な人々への支援事業	27	54
VI 東日本大震災被災者支援		
東日本大震災被災者支援事業	40	120
合計	3731	13051.5

*単発で行ったプログラムは入っていません。

Ⅷ-4 東京YWCA 新聞

発行実績：年 11 回、毎号 1300 部

対 象：東京YWCA 会員、地域YWCA、関係団体など

体 裁：A4 版 4 ページ

1 面主張記事

4 月号 NO. 725

イースターメッセージ からだのよみがえり（大久保正禎）

号外：会員総会報告

5 月号 NO. 726

憲法記念日に思う バーニー・サンダースの選挙運動に学ぶ（宇都宮健児）

6 月号 NO. 727

米軍基地と沖縄（糸洲のぶ子）

7 月号 NO. 728

天皇の「おことば」は天皇制に生かされるか（吉馴明子）

8 月号 NO. 729

戦争・暴力の反対語は、平和ではなく対話です（暉峻淑子）

10 月号 NO. 730

知っていますか？ 外国人労働者の問題（鈴木伶子）

11 月号 NO. 731

「共に生きる」ということ（田中公明）

12 月号 NO. 732

クリスマスメッセージ クリスマスの光と闇（鈴木育三）

1 月号 NO. 733

年頭にあって この道を、ためらわず（実生律子）

2 月号 NO. 734

会員総会資料 2018 年度基本方針・重点課題案 YWCA の原点、女性の人権の視点を加えて！（石田英理香）

号外：選挙公報

3 月号 NO. 735

国際女性デーを記念して（対談 藤原聖帆・山口慧子）

Ⅷ-5 財団広報紙

発行実績：年 2 回（4 月、10 月）、毎号 2200 部

対 象：一般

体 裁：A4 版 4 ページ

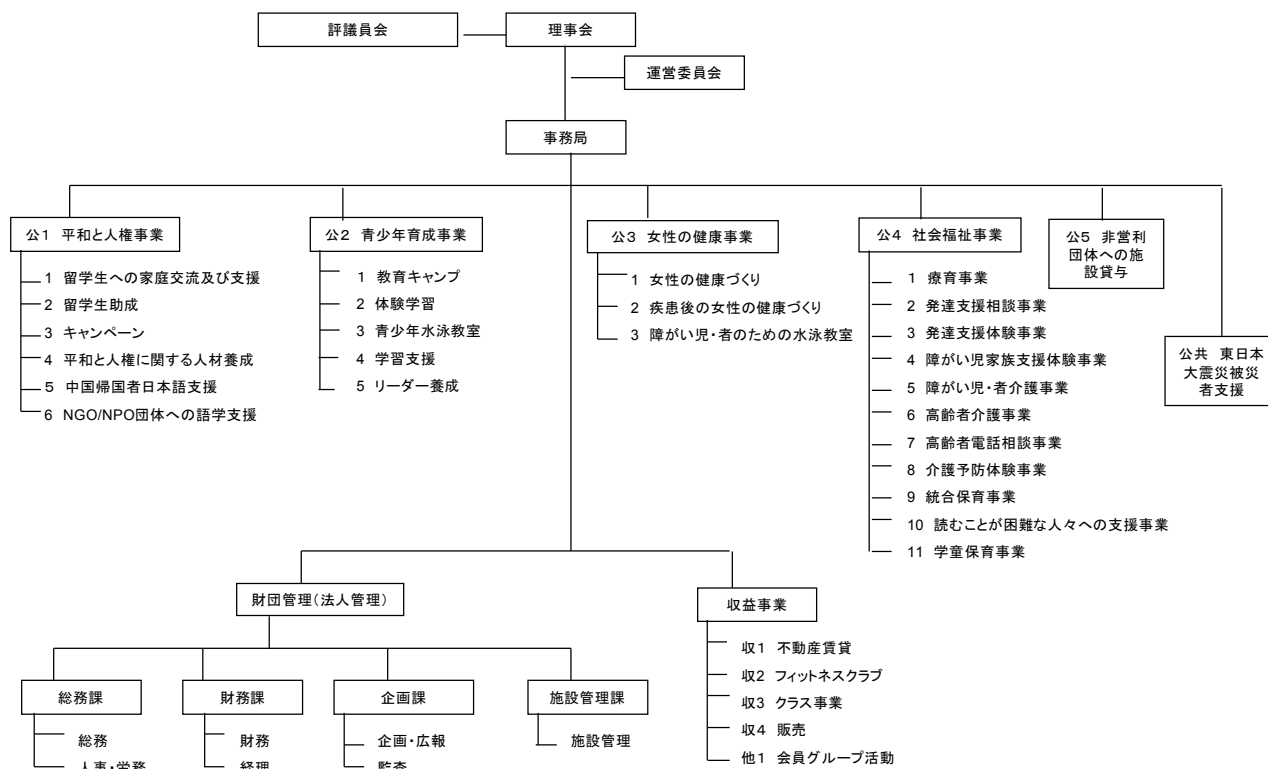
特 集：vol.13 DV への取り組み（平和と人権事業）

vol.14 療育事業（社会福祉事業）

Ⅷ-6 世界YWCA・日本YWCA 関連の集会および派遣、海外からの来訪者

	日程
世界YWCA デー集会	2017 年 4 月 22 日
韓国群山YWCA 会員来訪（表敬訪問）25 名	2017 年 8 月 1 日
YMCA/YWCA 合同祈祷週における 東京YMCA/在日本韓国YMCA/東京YWCA 合同祈祷週礼拝	2017 年 11 月 16 日

■2017年度 公益財団法人東京YWCA 組織図



■理事・監事

代表理事 川戸れい子

常務理事 能美祐子

理事 柴田幸子 巽英理香 寺岡祥子 外山真理 新美まり 林祥子 三宅香織

監事 八木昭子 横川民子

2018/3/31 現在

■評議員

岩村太郎 及川津紀子 大島和美 河島京美 川島堅二 杉本策子 高橋りえ子 新田和子

東平瑞江 細貝順子 本田真也 町田洋子 実生律子 桃井和馬 吉岡光人

2018/3/31 現在

■ 加盟・協力団体 (順不同)

公益社団法人神田法人会 公益社団法人神田法人会源泉部会 一般財団法人東京社会保険協会 千代田年金委員会
神田防火管理者協議会 神田災害防止会 東京災害ボランティアネットワーク 社会福祉法人千代田区社会福祉協議
会 心の東京革命協会 性搾取問題と取り組む会 NCC世界祈祷日実行委員会 NPO法人全国女性シェルターネ
ット NPO法人日本国際教育交流協会(JAFSA) 公益社団法人日本キャンプ協会 東京都国際交流委員会 独立行
政法人日本学生支援機構(JASSO) NPO法人自然体験活動推進協議会 公益社団法人国土緑化推進機構フォレスト・
サポーターズ 長野森林組合 「出会いと体験の森へ」実行委員会 東京日本語ボランティアネットワーク 0422 キリ
スト教合同プログラム実行委員会 むさしの市民平和月間実行委員会 公益財団法人武蔵野市国際交流協会 民間相
談機関連絡協議会 社会福祉法人調布市社会福祉協議会 板橋区男女平等推進センター登録団体連絡会 社会福祉法
人板橋区社会福祉協議会 一般社団法人全国児童発達支援協議会 板橋区内療育機関連絡会 板橋区地域自立支援協
議会障がい児部会 板橋区乳幼児の発達を支援する関係機関連絡会(発達ネット) 都立高島特別支援学校学校運営連
絡協議会 板橋区放課後等デイサービス事業者連絡会 板橋区障がい福祉計画査定委員会 社会福祉法人東京都社会
福祉協議会介護保険事業者連絡会 板橋区介護サービス全事業所連絡会 一般社団法人東京都民間保育園協会 公益
財団法人東京都水泳協会 関東ブロックシンクロ委員会 水府流太田派連絡会 神田環境衛生協会 一般社団法人日
本フィットネス産業協会 全国音訳ボランティアネットワーク 東京音訳グループ連絡会 社会福祉法人東京都社会
福祉協議会 東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)

■ 賛助会員・寄付者 (敬称略・五十音順)

賛助会員

(個人・団体)

明石一 石橋さなえ 市川寛 乾康子 岩村太郎 上山真理子 内山康一 浦野和一 大海由嗣 岡田正義
忍足直子 活水学院同窓会 金井淑子 株式会社トップナッチツーリスト 神崎典子 桐美津保 郡恭子 小村明子
笹岡やすみ J.E.ランデス 千田裕 田中英夫 東方久男 外崎弘子 鳥羽恵 新美まり 橋本永子 蜂谷祐一郎
原田國子 藤井野百合 堀尾吉晴 南小柿祐子 三宅香織 宮下まり 匿名1人

寄付者

(個人)

相澤加壽子 青木博子 赤川恵子 秋田みどり 浅野歌都子 新井晴美 飯塚剛寿 池上三喜子 石川恭子
石川松子 石橋玲子 石丸美子 泉実紀子 板花喜代子 市川順子 市川寛 稲垣真実 乾康子 上原美智
内田信子 内山康一 宇津陽子 江口直江 江尻美穂子 及川津紀子 大海由嗣 扇敬子 大崎美子 大沢登志子
太田尚子 大谷孝公 大野綾子 岡榮子 岡田典子 小川和美 小倉紀和美 小澤敏 忍足直子 落合桂子
小畑節子 貝森純子 柿元恵美子 柏木妙子 片山隆志 加藤みち代 金井淑子 要友紀子 狩野朝子 上谷伸子
神谷候子 川崎好子 来往幸一 岸本恵美子 北村和子 木村濤子 葛生禎子 栗原美津枝 栗山佳子 香村俊子
郡恭子 小杉詠介 小谷裕樹 後藤恵子 小林秀雄 小林有希 小藤知子 小柳末利 近藤敏子 齋藤民子
齋藤知弘 齋藤ヒロ 坂井史子 佐藤清子 佐藤浩子 佐藤マリ子 佐藤ゆみ子 J.E.ランデス 重川利枝 柴崎淳子
芝崎良子 柴田慶子 清水幸江 下田健太 白井栄子 白幡ゆき子 杉野孝子 杉本陽子 鈴木有美 鈴木俊子

(寄付者・前頁より続き)

鈴木良男 鈴木伶子 須田永子 相馬光子 高橋伸 高橋寛子 高橋礼子 田口美穂 田口理架子 田島道子
楯石和男 楯石てる子 田中勝巳 田中孝代 田中英夫 田中理香子 谷山久美子 田村セツ 田和榮 丹野裕介
千野こころ 手島千景 戸井眞澄 戸田美津子 外崎弘子 鳥羽和江 長尾夏紀 中西トク子 中野キミ子
中原淳子 中山美津江 新美まり 仁木三智子 西田悦子 西田操子 仁科大 新田和子 入谷徳子 野口朝子
長谷川恭子 畑中恵一 初野晴子 林里絵 原知恵子 原田國子 日笠征恵 平野久美子 福田育代 藤井慎裕
藤田智 古沢昭子 古本みつ子 星恵美子 細川敦子 前田侑子 松尾道夫 松尾るみ子 松木真奈 松下淳子
松田明美 松本奏恵 松本優樹 水上元子 水村裕一 三田智美 三井婦久子 南小柿祐子 南木典子 実生律子
宮城崇美子 三宅香織 宮下まり 村上由樹 毛利亮子 本村亜希子 森かれん 守屋敦子 八木達郎 八木敏子
矢口亜紀 八束嗣也 山口恒恵 山崎郁子 山本澄江 横川元彦 吉岡郁子 吉岡喜人 吉田秀雄 依田良子
ランダスハル 和田博子 渡辺寿美子 渡部幸代

ほか匿名 69人

(企業・団体)

アサヒワンプールクラブ あひるの会を支える会 アンコアを支える会 オイコクレジット・ジャパン
お弁当とお菓子作りの会 音訳グループ有志 株式会社三恵建設 株式会社高橋勲建築設計事務所
株式会社トップナッチツアーリスト グループ聖書を読む会 公益社団法人 Civic Force サレジオ教会
支援者エンパワメントプログラムを支える会 枝光会附属幼稚園 シスコシステムズ合同会社 七彩会
シニアダイアル有志 シマウマくらぶ親の会 全国友の会 太陽毛糸紡績株式会社 ティーポットサロン有志
東京YWCA板橋センターの事業を支えるクリスマスバザー実行委員会 東京YWCA専門学校同窓会
東洋英和女学院中高部宗教委員会 東洋英和女学院中等部高等部母の会 東洋英和女学院同窓会
日本キリスト教協議会女性委員会世界祈祷日事務所 日本基督教団大泉教会 日本基督教団久が原教会
日本基督教団武蔵野緑教会 野尻支援会 まきば幼稚舎卒園児保護者有志 武蔵野センターの活動を支える会
「留学生の母親」運動グループまどか 「留学生の母親」運動工房「ひだまり」 「留学生の母親」運動を支える会
その他有志

貸借対照表
2018年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	434,565,922	599,923,646	△ 165,357,724
未収金	19,416,387	14,304,837	5,111,550
商品	216,497	238,988	△ 22,491
貯蔵品	64,228	77,986	△ 13,758
前払費用	172,800	4,348,250	△ 4,175,450
前払金	2,910,799	2,922,320	△ 11,521
立替金	0	4,073	△ 4,073
流動資産合計	457,346,633	621,820,100	△ 164,473,467
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本土地	86,917,089	86,917,089	0
基本建物	880,875,042	922,382,230	△ 41,507,188
基本建物付属設備	2,746,279	3,490,622	△ 744,343
基本財産預金	141,000,000	141,000,000	0
基本財産合計	1,111,538,410	1,153,789,941	△ 42,251,531
(2) 特定資産			
建物	165,010,317	169,795,753	△ 4,785,436
建物付属設備	65,170,727	72,479,817	△ 7,309,090
構築物	8,558,382	9,449,046	△ 890,664
什器備品	833,362	1,041,702	△ 208,340
非償却資産	1,800,000	1,800,000	0
女性の健康サポート特定資産	15,000,000	15,000,000	0
留学生基金特定資産	26,475,423	26,475,423	0
留学生資金特定資産	3,690,202	3,690,202	0
留学生奨学金特定資産	10,246,786	10,122,984	123,802
会員サポート特定資産	800,000	800,000	0
武蔵野拠点運営費積立資産	37,919,920	0	37,919,920
介護職員研修特定資産	822,087	822,087	0
中国帰国者日本語教室特定資産	1,569,188	2,000,000	△ 430,812
預り敷金積立資産	167,918,340	164,025,270	3,893,070
フィットネス預り保証金引当資産	4,200,000	4,800,000	△ 600,000
野外環境教育預り保証金引当資産	9,400,000	9,400,000	0
会館整備費積立資産	321,968,201	221,968,201	100,000,000
東京YWCA東日本大震災被災者支援積立資産	1,458,515	1,458,515	0
会館修繕費積立資産	47,980,000	47,980,000	0
板橋センター増改築特定資産	19,084,850	11,153,050	7,931,800
保育園施設・設備整備特定資産	50,000,000	35,000,000	15,000,000
空調改修工事積立資産	50,000,000	0	50,000,000
プール設備改修工事積立資産	19,000,000	0	19,000,000
特定資産合計	1,028,906,300	809,262,050	219,644,250
(3) その他固定資産			
土地	1,993,095	4,567,750	△ 2,574,655
建物	202,610,138	228,275,478	△ 25,665,340
建物付属設備	82,257,663	94,614,691	△ 12,357,028
構築物	4,937,218	5,809,571	△ 872,353
車両運搬具	2	2	0
什器備品	4,453,902	4,936,046	△ 482,144
リース資産	183,000	2,379,000	△ 2,196,000
ソフトウェア	3,284,873	5,246,610	△ 1,961,737
図書	1,761,120	1,761,120	0
電話加入権	2,395,068	2,395,068	0
差入保証金	0	20,000	△ 20,000
差入敷金	800,000	800,000	0
出資金	30,000	30,000	0
長期前払費用	115,200	288,000	△ 172,800
その他固定資産合計	304,821,279	351,123,336	△ 46,302,057
固定資産合計	2,445,265,989	2,314,175,327	131,090,662
資産合計	2,902,612,622	2,935,995,427	△ 33,382,805
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	42,610,858	117,601,267	△ 74,990,409
未払法人税等	27,000,000	120,000	26,880,000
未払消費税等	13,922,600	359,300	13,563,300
前受金	5,663,662	152,098,828	△ 146,435,166
前受会費	24,300	0	24,300
預り金	7,980,390	1,546,824	6,433,566
1年内返済予定長期借入金	2,760,000	2,760,000	0
リース債務	183,000	2,196,000	△ 2,013,000
流動負債合計	100,144,810	276,682,219	△ 176,537,409
2. 固定負債			
長期借入金	37,490,000	40,250,000	△ 2,760,000
預り保証金	13,600,000	14,200,000	△ 600,000
預り敷金	167,918,340	164,025,270	3,893,070
長期リース債務	0	183,000	△ 183,000
固定負債合計	219,008,340	218,658,270	350,070
負債合計	319,153,150	495,340,489	△ 176,187,339
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	383,145,743	394,777,244	△ 11,631,501
補助金・助成金	129,025,721	121,431,931	7,593,790
指定正味財産合計	512,171,464	516,209,175	△ 4,037,711
(うち基本財産への充当額)	(169,679,328)	(173,579,111)	(△ 3,899,783)
(うち特定資産への充当額)	(342,492,136)	(342,630,064)	(△ 137,928)
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	2,071,288,008	1,924,445,763	146,842,245
(うち基本財産への充当額)	(941,859,082)	(980,210,830)	(△ 38,351,748)
(うち特定資産への充当額)	(504,895,824)	(288,406,716)	(△ 216,489,108)
正味財産合計	2,583,459,472	2,440,654,938	142,804,534
負債及び正味財産合計	2,902,612,622	2,935,995,427	△ 33,382,805

正味財産増減計算書
2017年4月1日から2018年3月31日

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益	14,000	78,030	△ 64,030
基本財産受取利息	14,000	78,030	△ 64,030
②特定資産運用益	17,850	31,539	△ 13,689
特定資産受取利息	12,746	24,843	△ 12,097
特定資産有価証券利息	1,000	1,000	0
特定資産受取利息振替額	4,104	5,696	△ 1,592
③受取会費	4,586,900	4,507,800	79,100
成人受取会費	4,028,900	4,112,800	△ 83,900
成人会友受取会費	148,000	95,000	53,000
賛助会員受取会費	410,000	300,000	110,000
④事業収益	579,016,044	549,536,840	29,479,204
登録費収益	4,140,730	4,279,890	△ 139,160
授業料・講習料収益	62,717,845	61,312,875	1,404,970
フィットネス会費収益	92,330,820	91,818,194	512,626
利用料収益	9,931,904	9,876,296	55,608
教材費収益	148,104	157,376	△ 9,272
手数料収益	335,334	226,956	108,378
売上収益	1,710,973	2,469,624	△ 758,651
施設設備利用料収益	8,052,556	11,162,045	△ 3,109,489
賃貸料収益	320,604,139	311,201,024	9,403,115
障がい児者支援費収益	67,193,446	43,142,155	24,051,291
障がい児者利用負担金収益	3,336,875	2,491,852	845,023
相談料収益	135,000	87,500	47,500
高齢者介護報酬収益	7,707,697	10,257,050	△ 2,549,353
高齢者利用負担金収益	489,181	751,387	△ 262,206
高齢者受託収益	181,440	302,616	△ 121,176
⑤受取補助金等	337,855,553	320,841,626	17,013,927
受取地方補助金 助成金	48,131,160	89,552,318	△ 41,421,158
受取民間補助金 助成金	5,880,835	3,399,590	2,481,245
受取受託収益	232,734,064	217,613,109	15,120,955
受取補助金等振替額	51,109,494	10,276,609	40,832,885
⑥受取寄付金	25,435,959	37,045,404	△ 11,609,445
受取寄付金	11,467,544	16,687,373	△ 5,219,829
受取寄付金振替額	13,968,415	20,358,031	△ 6,389,616
⑦雑収益	7,775,847	5,093,776	2,682,071
受取利息	9,530	4,694	4,836
その他雑収益	7,665,717	5,017,582	2,648,135
受入研修費収益	100,000	70,000	30,000
利用者等外給食費収益	600	1,500	△ 900
経常収益計	954,702,153	917,135,015	37,567,138
(2) 経常費用			
①事業費	911,224,219	841,439,062	69,785,157
職員給料手当	117,810,879	121,923,677	△ 4,112,798
職員通勤手当	4,028,665	4,407,459	△ 378,794
職員法定福利費	17,620,316	19,703,961	△ 2,083,645
職員中退共退職金	5,258,875	5,490,526	△ 231,651
教員給料手当	155,832,530	126,609,007	29,223,523
教員通勤手当	4,580,619	3,563,880	1,016,739
教員法定福利費	22,099,501	19,411,903	2,687,598
教員中退共退職金	6,077,580	5,621,660	455,920
非常勤給料手当	118,937,994	117,362,301	1,575,693
非常勤通勤手当	6,607,016	6,544,859	62,157
非常勤法定福利費	3,718,640	5,165,115	△ 1,446,475
福利厚生費	1,651,933	1,717,814	△ 65,881
手数料	7,157,202	4,426,764	2,730,438
委託費	55,862,411	53,606,446	2,255,965
支払報酬	5,749,022	6,719,541	△ 970,519
支援費	3,000,000	5,000,000	△ 2,000,000
消耗品費	12,915,604	12,207,236	708,368
消耗備品費	350,640	1,376,064	△ 1,025,424
食材費	12,019,574	10,740,195	1,279,379
旅費交通費	10,403,641	9,640,169	763,472
通信運搬費	5,725,262	6,165,473	△ 440,211
印刷製本費	1,751,029	948,452	802,577
広告宣伝費	179,712	179,112	600
会議費	475,609	496,859	△ 21,250
渉外費	39,873	30,689	9,184
諸会費	434,598	439,598	△ 5,000
教材費	2,750,338	3,052,478	△ 302,140
新聞図書費	170,455	187,395	△ 16,940
研修費	107,518	662,380	△ 554,862
賃借料	5,177,114	3,048,410	2,128,704
リース料	6,934,809	6,669,795	265,014
仕入費	1,284,377	1,829,885	△ 545,508
修繕費	11,325,966	9,912,906	1,413,060
衛生清掃費	21,693,204	19,475,353	2,217,851
光熱水費	60,983,496	60,294,965	688,531
保険料	3,091,120	3,695,655	△ 604,535
公租公課	118,772,500	81,108,824	37,663,676
支払寄付金	220,518	404,457	△ 183,939
保守点検料	9,120,777	8,016,016	1,104,761
奨学給付費	1,080,000	2,160,000	△ 1,080,000

科目	当年度	前年度	増減
支払利息	500,940	534,060	△ 33,120
雑費	1,527,431	928,735	598,696
減価償却費	82,019,481	85,783,538	△ 3,764,057
長期前払費用償却額	4,175,450	4,175,450	0
②管理費	27,381,886	25,979,050	1,402,836
職員給料手当	4,106,542	4,137,484	△ 30,942
職員通勤手当	375,077	129,583	245,494
職員法定福利費	2,148,423	676,427	1,471,996
職員中退共退職金	488,125	188,154	299,971
非常勤給料手当	619,200	552,153	67,047
非常勤通勤手当	30,880	28,322	2,558
非常勤法定福利費	7,308	5,782	1,526
福利厚生費	39,210	141,665	△ 102,455
手数料	1,496,583	799,429	697,154
委託費	2,950,398	3,993,128	△ 1,042,730
支払報酬	1,061,918	1,074,514	△ 12,596
消耗品費	418,841	293,767	125,074
消耗備品費	360,000	0	360,000
旅費交通費	92,199	43,603	48,596
通信運搬費	1,174,089	1,145,142	28,947
印刷製本費	2,174,507	2,426,562	△ 252,055
広告宣伝費	0	10,000	△ 10,000
会議費	3,714	0	3,714
渉外費	16,956	10,152	6,804
諸会費	50,102	119,102	△ 69,000
加盟分担金	4,552,000	4,689,000	△ 137,000
教材費	0	3,110	△ 3,110
新聞図書費	17,532	42,675	△ 25,143
研修費	222,578	543,830	△ 321,252
賃借料	96,936	103,714	△ 6,778
リース料	130,451	158,045	△ 27,594
修繕費	122,673	106,077	16,596
衛生清掃費	310,297	315,063	△ 4,766
光熱水費	1,673,081	1,676,110	△ 3,029
保険料	272,197	245,886	26,311
公租公課	1,011,630	1,008,680	2,950
保守点検料	387,353	194,819	192,534
雑費	31,097	118,453	△ 87,356
減価償却費	939,989	998,619	△ 58,630
経常費用計	938,606,105	867,418,112	71,187,993
評価損益等調整前当期経常増減額	16,096,048	49,716,903	△ 33,620,855
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	16,096,048	49,716,903	△ 33,620,855
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
①その他の雑収益	81,761	1,553,400	△ 1,471,639
その他雑収益	81,761	1,553,400	△ 1,471,639
②固定資産売却益	60,812,165	0	60,812,165
土地売却益	60,812,165	0	60,812,165
③受取補償金	99,199,032	0	99,199,032
受取補償金	99,199,032	0	99,199,032
④固定資産受贈益	540,000	1	539,999
車両運搬具受贈益	0	1	△ 1
什器備品受贈益	540,000	0	540,000
経常外収益計	160,632,958	1,553,401	159,079,557
(2) 経常外費用			
①事業費	11,449,168	96,362,410	△ 84,913,242
修繕費	11,449,168	95,794,881	△ 84,345,713
②管理費	0	1,447,061	△ 1,447,061
修繕費	0	1,447,061	△ 1,447,061
③固定資産除却損	18,320,593	2,270,499	16,050,094
建物除却損	18,310,281	1,923,295	16,386,986
建物付属設備除却損	10,312	331,554	△ 321,242
車両運搬具除却損	0	3	△ 3
什器備品除却損	0	15,647	△ 15,647
④受取補助金等返還額	117,000	38,868	78,132
経常外費用計	29,886,761	100,118,838	△ 70,232,077
当期経常外増減額	130,746,197	△ 98,565,437	229,311,634
当期一般正味財産増減額	146,842,245	△ 48,848,534	195,690,779
一般正味財産期首残高	1,924,445,763	1,973,294,297	△ 48,848,534
一般正味財産期末残高	2,071,288,008	1,924,445,763	146,842,245
II 指定正味財産増減の部			
①特定資産運用益	4,104	5,696	△ 1,592
特定資産受取利息	4,104	5,696	△ 1,592
②受取補助金等	58,703,284	0	58,703,284
受取地方補助金 助成金	58,703,284	0	58,703,284
③受取寄附金	2,336,914	1,817,897	519,017
受取寄附金	2,336,914	1,817,897	519,017
④一般正味財産への振替額	△ 65,082,013	△ 30,640,336	△ 34,441,677
一般正味財産への振替額	△ 65,082,013	△ 30,640,336	△ 34,441,677
当期指定正味財産増減額	△ 4,037,711	△ 28,816,743	24,779,032
指定正味財産期首残高	516,209,175	545,025,918	△ 28,816,743
指定正味財産期末残高	512,171,464	516,209,175	△ 4,037,711
III 正味財産期末残高	2,583,459,472	2,440,654,938	142,804,534

補助金及び助成金
2017年4月1日から2018年3月31日

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次の通りである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
地方公共団体補助金助成金						
高齢者健康づくり事業補助金	調布市	0	600,000	600,000	0	
調布市延長保育事業費補助金	調布市	0	2,661,700	2,661,700	0	
調布市民間保育所等運営費等補助金	調布市	35,000,000	60,303,284	45,303,284	50,000,000	特定資産
府中市民間保育所等運営費等補助金	府中市	0	754,460	754,460	0	
調布市保全地区等の保全に関する補助金(保護樹)	調布市	0	80,000	80,000	0	
調布市保存樹木等剪定補助金	調布市	0	459,000	459,000	0	
板橋区障がい児療育訓練事業補助金	板橋区	0	9,426,000	9,426,000	0	
板橋区児童発達支援センターサービス推進事業補助金	板橋区	0	12,977,000	12,977,000	0	
東京都保育サービス推進事業補助金	東京都	0	7,097,000	7,097,000	0	
東京都保育士等キャリアアップ補助金	東京都	0	11,432,000	11,432,000	0	
東京都認可保育所屋外遊技場芝生化事業補助金	東京都	0	283,000	283,000	0	
東京都在住外国人支援事業助成金	東京都	0	761,000	761,000	0	
民間補助金助成金						
東京都共同募金会配分金 肢体不自由者水泳指導のために	福)東京都共同募金会	0	300,000	300,000	0	
子どもゆめ基金	独立行政法人国立青少年教育振興機構	0	911,041	911,041	0	
社会福祉育成活動推進のための助成金	公益財団法人愛恵福祉支援財団	0	200,000	200,000	0	
独立行政法人福祉医療機構借入金利子補給費	公益財団法人東京都福祉保健財団	0	500,940	500,940	0	
地域活動補助金	公益財団法人日本YWCA	0	175,000	175,000	0	
生活習慣病予防検診費用助成金	社会福祉法人福利厚生センター	0	48,020	48,020	0	
DV被害者支援の質向上に向けた人材育成とコミュニティ形成プロジェクト	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	0	3,745,834	3,745,834	0	
合 計		35,000,000	112,715,279	97,715,279	50,000,000	

■ 監査報告

監 事 監 査 報 告 書

2018年6月1日

公益財団法人 東京YWCA
代表理事 川戸れい子 殿

公益財団法人 東京YWCA
監事 横川民子
監事 八木昭彦

当法人の2017年4月1日から2018年3月31日までの会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

- 貸借対照表、正味財産増減計算書並びにその付属明細書並びに財務諸表に対する注記、併せて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表について公監査法人に指導を依頼し、別紙の書類は2018年3月31日の財産の状況および同日をもって終了する会計年度の正味財産増減の状況を適正に表示しているとの決算報告を得た。
- 事業報告書の内容は真実であると認める。

以 上

事業を行っている主な拠点

東京YWCA会館	〒101-0062	東京都千代田区神田駿河台 1-8-11
	TEL	03-3293-5421 (代表) FAX 03-3293-5570

東京YWCA板橋センター	〒174-0043	東京都板橋区坂下 1-34-25
	TEL	03-5914-1854 FAX 03-5914-1852

東京YWCA国領センター	〒182-0022	東京都調布市国領町 7-11-1
	TEL	042-483-5151 FAX 042-483-5207

東京YWCA武蔵野センター	〒180-0004	東京都武蔵野市吉祥寺本町 4-9-28
	TEL	0422-27-5871 FAX 0422-27-5872

東京YWCA野尻キャンプ場	〒389-1312	長野県上水内郡信濃町富濃 3946
	TEL	026-255-2414

公益財団法人東京YWCA

URL: <http://www.tokyo.ywca.or.jp/>

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11

2018年6月発行